

令和5年度入学生用  
1年次（令和5年度開講）

# 履修要項

(*syllabus*)

教養学科

鹿児島女子短期大学  
Kagoshima Women's College



## 令和5年度入学生 教育課程

別表 第4 教養学科教育課程表

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
				卒業履修単位数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択					
一般教養科目	<b>わたしを知る・わたしを創る</b>									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	11	日本語表現の基礎	講義		2	2	2			
	13	倫理学	講義		2	2	2			
	15	絵本論	講義		2		2			
	17	心理学	講義		2	2	2			
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
		体育講義	講義		1				1	
	19	体育実技	実技		1	1				
	<b>社会を知る・社会につながる</b>									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	21	社会学	講義		2	2	2			
	23	日本国憲法	講義		2	2	2			
	25	歴史学	講義		2	2	2			
	27	総合教養 I	講義		2	2				
	29	総合教養 II	講義		2		2			
	31	AI社会論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
	<b>世界を知る・世界を広げる</b>									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	33	海外事情	演習		2		2			海外研修
	35	公共人類学	講義		2	2	2			
	37	英語の文学とメディア	講義		2	2	2			
	39	アメリカ文学	講義		2	2	2			
	41	英語演習 I	演習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかの I・II を連続選択履修
	47	中国語演習 I	演習			2				
	49	韓国語演習 I	演習			2				
	55	日本語演習 I	演習		2					
	57	英語演習 II	演習	2			2		*日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表	
	63	中国語演習 II	演習				2			
	65	韓国語演習 II	演習				2			
	71	日本語演習 II	演習				2			
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
73	数学基礎	講義		2	2	2				
75	理科基礎	講義		2	2	2				
77	分子からみた生物	講義		2	2	2				
79	SDGs論	演習		2		2				
81	データサイエンス概論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修	
	データサイエンス演習 ◎	演習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
	AIプログラミング ◎	演習		2					2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修
最低修得単位数				4	10					
卒業最低修得単位数				14						

注: ○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)

◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考		
				卒業履修単位数		1前	1後	2前	2後			
				必修	選択							
専 門 科 目		<b>リベラルアーツ</b>				※「リベラルアーツ」の領域内から16単位以上選択						
		<b>a)心 理</b>										
	85	人間関係とコミュニケーション	講義	2			2				ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)必修	
	87	生涯発達心理学▲	講義			2						
		臨床心理学	講義						2			
	89	カウンセリング入門▲	講義				2					2単位以上 選択必修
		臨床人間学	講義						2			
		社会心理学	講義							2		上級ビジネス実務士・上級秘書士必修
		<b>b)人 間 と 社 会</b>										
		哲 学	講義	2					2		2単位以上 選択必修	
		文化人類学	講義						2			
		現代法学	講義						2			
		現代社会学	講義							2		上級秘書士必修
	91	生涯学習概論	講義				2					司書資格必修
		社会福祉概論	講義							2		
		メディア文化論	講義							2		
		<b>c)地 域 と 観 光</b>										
	93	かごしまのダイナミズム	講義	1		1						
	95	地域とマスメディア	講義	1			1					
	97	観光文化学	講義		2	2						
	99	観光フィールドワーク	演習		1		1					
	101	観光とホスピタリティ	演習		1		1					
		<b>d)国 際 理 解</b>										
		言語・文化の多様性	講義	2					2		上級秘書士・上級ビジネス実務士 上級ビジネス実務士(サービス実務)必修	
		グローバル社会への理解	講義		2				2			
		グローバルコミュニケーション	講義		2				2			
		異文化間コミュニケーション論	講義		2				2			
	<b>ビジネス・コミュニケーション</b>											
103	ビジネス実務総論	講義	2		2					ビジネス実務士・上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士(サービス実務)、上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書)必修		
105	オフィス実務	演習	2		2							
107	ビジネスワーク	演習	2			2						
109	秘書総論	講義	2		2				秘書士・上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)必修			
111	ビジネス英語	演習	2			2			上級ビジネス実務士必修 上級ビジネス実務士(サービス実務)必修			
	英 語	演習	2					2				
	英 会 話	演習	2					2				
	ヨーロッパ言語	演習	2					2				
	中 国 語	演習	2					2				
	韓 国 語	演習	2					2				

注：▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
				卒業履修単位数		1前	1後	2前	2後		
				必修	選択						
専門科目	<b>メディア・クリエイティブ</b>										
	113	情報科学概論	講義	2		2					
	115	情報活用	演習	2		2					
	117	デジタルビジネス概論	講義		2		2				情報処理士・ウェブデザイン実務士必修
	119	情報処理論	講義		2		2				情報処理士・ウェブデザイン実務士必修、司書資格選択必修
		プログラミング	演習		2				2		情報処理士・ウェブデザイン実務士必修
	121	デジタルデザイン	演習		2	2					ウェブデザイン実務士必修
		マルチメディア演習	演習		2				2		ウェブデザイン実務士必修
	123	図書館概論	講義		2	2					司書資格必修
		図書館情報資源概論	講義		2				2		
		情報サービス演習Ⅱ	講義		2				2		
		<b>キャリア・アドバンス</b>									
	125	日本語表現法Ⅰ	講義		2		2				
	127	日本語表現法Ⅱ	講義		2			2			
		ライフデザイン論Ⅰ	講義		1					1	
		ライフデザイン論Ⅱ	講義		1						1
	129	キャリアデザインⅠ	演習		2		2				
	131	キャリアデザインⅡ	演習		2			2			
		キャリアデザインⅢ	演習		2					2	
		プロジェクト演習	演習		2						2
	プロジェクトデザイン概論	講義		2					2		
133	総合教養ゼミ	演習		2			2				
最低修得単位数				38	10						
卒業最低修得単位数		必修	38(リベラルアーツ選択必修:8を含む)				選択	10	合計		48
最低修得単位数総計		卒業	62								

別表 第4の2 ビジネス実務士養成科目 [ビジネス実務士]  
(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(103)	○ビジネス実務総論	講義	2		2				
(107)	○ビジネスワーク	演習	2			2			
(125)	○日本語表現法 I	講義	2		2				
(113)	○情報科学概論	講義	2		2				
(115)	○情報活用	演習	2		2				
(129)	○キャリアデザイン I	演習	2		2				
	○プロジェクト演習	演習	2					2	
(85)	○人間関係とコミュニケーション	講義	2			2			
	最低修得単位数		16						
	最低修得単位数総計								[ビジネス実務士認定証 63]

別表 第4の3 ビジネス実務士養成科目 [上級ビジネス実務士]  
(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(103)	○ビジネス実務総論	講義	2		2				
(107)	○ビジネスワーク	演習	2			2			
(125)	○日本語表現法 I	講義	2		2				
(113)	○情報科学概論	講義	2		2				
(115)	○情報活用	演習	2		2				
(105)	○オフィス実務	演習	2		2				
(129)	○キャリアデザイン I	演習	2		2				
	○プロジェクト演習	演習	2					2	
(85)	○人間関係とコミュニケーション	講義	2			2			
	○社会心理学	講義	2					2	
	○異文化間コミュニケーション論	講義	2					2	
(111)	○ビジネス英語	演習	2			2			
135	会計処理	講義	2			2			
	最低修得単位数		26						
	最低修得単位数総計								[上級ビジネス実務士認定証 67]



別表 第4の6 秘書士養成科目 [上級秘書士]  
(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(109)	○秘書総論	講義	2		2				
(105)	○オフィス実務	演習	2		2				
(125)	○日本語表現法 I	講義	2		2				
(113)	○情報科学概論	講義	2		2				
(115)	○情報活用	演習	2		2				
(129)	○キャリアデザイン I	演習	2		2				
(85)	○プロジェクト演習	演習	2					2	
	○人間関係とコミュニケーション	講義	2			2			
	○社会心理学	講義	2					2	
	○異文化間コミュニケーション論	講義	2					2	
(107)	○現代社会学	講義	2					2	
	○ビジネスワーク	演習	2			2			
	最低修得単位数		24						
	最低修得単位数総計 [上級秘書士認定証 65 ]								

別表 第4の7 秘書士養成科目 [上級秘書士(メディカル秘書)]  
(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(109)	○秘書総論	講義	2		2				
(105)	○オフィス実務	演習	2		2				
(125)	○日本語表現法 I	講義	2		2				
(113)	○情報科学概論	講義	2		2				
(115)	○情報活用	演習	2		2				
(129)	○キャリアデザイン I	演習	2		2				
(85)	○プロジェクト演習	演習	2					2	
	○人間関係とコミュニケーション	講義	2			2			
(107)	○ビジネスワーク	演習	2			2			
	メディカル秘書総論	講義	2				2		
	医療事務演習	演習	2					2	
	薬理の基礎	講義	2					2	
	最低修得単位数		24						
	最低修得単位数総計 [上級秘書士(メディカル秘書)認定証 71 ]								



別表 第4の8 情報処理士養成科目  
(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(113)	○情報科学概論	講義	2		2				
(115)	○情報活用	演習	2		2				
(119)	○情報処理論	講義	2			2			
	○プログラミング	演習	2					2	
(117)	○デジタルビジネス概論	講義	2			2			
	最低修得単位数		10						
	最低修得単位数総計								[情報処理士認定証 67]

別表 第4の9 ウェブデザイン実務士養成科目  
(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(113)	○情報科学概論	講義	2		2				
(115)	○情報活用	演習	2		2				
(119)	○情報処理論	講義	2			2			
	○プログラミング	演習	2					2	
(117)	○デジタルビジネス概論	講義	2			2			
(121)	○デジタルデザイン	演習	2		2				
137	ウェブデザイン	演習	2			2			
	○マルチメディア演習	演習	2				2		
139	情報デザイン演習	演習	2			2			
	○プロジェクト演習	演習	2					2	
	最低修得単位数		20						
	最低修得単位数総計								[ウェブデザイン実務士認定証 75]

別表 第4の10 司書養成科目  
(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	区分	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
				履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択					
(91)	必修 科目	○生涯学習概論	講義	2			2			2科目選択必修
(123)		○図書館概論	講義	2		2				
(113)		○情報科学概論	講義	2		2				
		図書館制度・経営論	講義	2					2	
141		図書館サービス概論	講義	2		2				
143		情報サービス論	講義	2			2			
		児童サービス論	講義	2				2		
		情報サービス演習Ⅰ	演習	2					2	
		○情報サービス演習Ⅱ	演習	2					2	
145		○図書館情報資源概論	講義	2				2		
		情報資源組織論	講義	2			2			
		情報資源組織演習Ⅰ	演習	2				2		
		情報資源組織演習Ⅱ	演習	2					2	
(119)		選択 科目	○情報処理論	講義		2		2		
		学校経営と学校図書館	講義		2			2		
		図書館実習	実習		1			1		
	最低修得単位数			26	3					
	最低修得単位数総計			[司書資格 86]						

# 一般教養科目



科目名	日本語表現の基礎		科目ナンバー	AA021201
担当者	藤川 和也			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	漢字や語彙、丁寧な字の書き方、敬語、手紙文のきまりなどの社会生活を送る上で必須の書く力の育成と、縮約、情報の正確な読み取り、レポートのきまりなどの学生生活を送る上で必要となる書く力の育成を目指す。
授業の到達目標	1. 基礎的な語彙力・漢字力を身につける2. 失礼のない形式の整った手紙文を作成できる3. 根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できる

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス 自己紹介文の作成と交流	藤川
第2回	字の丁寧な書き方	藤川
第3回	語彙と文法	藤川
第4回	手紙文(御礼状・案内文)の書き方	藤川
第5回	敬語の基礎(尊敬語・謙譲語・丁寧語)	藤川
第6回	小レポート1(語彙、敬語、手紙文の復習)	藤川
第7回	縮約の作り方	藤川
第8回	履歴書の書き方	藤川
第9回	グラフの種類と特徴	藤川
第10回	図や表を用いた文章理解	藤川
第11回	小レポート2(縮約と資料の分析)	藤川
第12回	プレゼンテーションの基本的知識	藤川
第13回	意見文の吟味と分かりやすい文の書き方	藤川
第14回	意見文の吟味と完成	藤川
第15回	総括(最終レポートの作成)	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞、雑誌、ネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の振り返りと作成した文章の推敲をする。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	前期：木曜日 13:00～14:00 後期：月曜日 14:00～16:00 研究室(西館405号室)		

テキスト	プリントを適宜配布します。
参考文献等	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2009 ￥740 (ISBN-10: 4062880210)
成績評価基準	最終レポートにおいて、根拠を明確にした説得力のあるレポート、失礼のない形式の整った手紙文を作成できること。
成績評価の方法	課題ミニレポート(20%)、小レポート1、2(40%)、授業レポート(40%)
GPA基準	
備考	※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。60名までの受講制限を設けます。

科目名	倫理学	科目ナンバー	AA011201
担当者	村若 修		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	一般教養
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	「倫理学」とは、人の生き方や人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善/悪、正/不正という視点で考えていく学問です。「道徳」ないし「倫理」はすでに皆さんに身につけているものですが、それについて倫理学は反省を加え、吟味する学問だと考えてください。本講義では「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療に関する倫理問題について考えていきます。
授業の到達目標	1. 倫理的な思考を身につける 2. 「生命倫理」の基礎を理解する 3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを表現できる

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	倫理学と「生命倫理」	村若
第2回	生命倫理の成立(1)患者の権利	村若
第3回	生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史	村若
第4回	生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則	村若
第5回	尊厳死(1)日本及び世界の状況	村若
第6回	尊厳死(2)倫理的考察	村若
第7回	安楽死(1)日本及び世界の状況	村若
第8回	安楽死(2)倫理的考察	村若
第9回	人工妊娠中絶	村若
第10回	生殖補助医療技術の利用(1)日本及び世界の状況	村若
第11回	生殖補助医療技術の利用(2)倫理的考察	村若
第12回	出生前診断(1)日本及び世界の状況	村若
第13回	出生前診断(2)倫理的考察	村若
第14回	脳死と臓器移植(1)日本及び世界の状況	村若
第15回	脳死と臓器移植(2)倫理的考察	村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	配付資料を事前によく読んでくる	学習合計時間(h)	
事後学習	映像教材について感想文を課す	学習合計時間(h)	
課題に対するフィードバックの方法	ミニツッペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニツッペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。		

オフィスアワー	火曜日15:00~17:00 研究室(西館410号室)
テキスト	適宜資料を配付する。
参考文献等	『現代世界の思想的課題』 中山愈編 弘文堂 1998年 (ISBN4-335-15041-5) 『はじめて出会う生命倫理』 玉井真理子・大谷いづみ編 有斐閣アルマ 2011年 (ISBN978-4-641-12420-2)
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	期末試験(80%)、授業内容に関する小レポート・感想文(20%)
GPA基準	
備考	



科目名	絵本論		科目ナンバー	AA022008
担当者	藤川 和也			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	絵本には読み手を引き込む様々なしかけがあります。そうした絵本のしかけについて、『絵本のひみつ』や鹿児島メルヘン館の見学などの講義や体験活動を通して理解することを目指します。また、同じ作品で媒体による違い、訳し方による違いなどから絵本作品の楽しさを味わうことを目指します。
授業の到達目標	1. 絵本の歴史、種類とその特性を理解することができる 2. 作品のもつ絵本の特性を分析することができる 3. 絵本の特性を生かした作品の紹介文を作成できる

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンスお気に入りの絵本を振り返る	藤川
第2回	子どもの絵本の読み方	藤川
第3回	絵本の歴史と種類	藤川
第4回	絵本のひみつ1-まるい大きな正面顔・主人公の立ち位置	藤川
第5回	絵本のひみつ2-色彩	藤川
第6回	絵本のひみつ3-モンタージュ	藤川
第7回	絵本のひみつ4-やなせたかし『それ行け！アンパンマン』の紹介	藤川
第8回	絵本のひみつ5-島田ゆか『バムとケロの〜』シリーズ作品の紹介	藤川
第9回	絵本のひみつ6-加古里子『だるまちゃんと〜』シリーズ作品の紹介	藤川
第10回	絵本のひみつ7-浜田廣介『泣いた赤おに』の関連作品の紹介	藤川
第11回	絵本の読み聞かせ	藤川
第12回	『あらしのよるに』木村裕一の作品鑑賞	藤川
第13回	『あらしのよるに』木村裕一の関連作品との比較	藤川
第14回	体験学習(読み聞かせの方法と実践の紹介)	藤川
第15回	体験学習(かごしまメルヘン館の見学)	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	図書館やEテレ「テレビ絵本」(月～金：午前8時50分～午前8時55分)などで日頃から絵本に触れる機会をもつ	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義を参考に関連する絵本を図書館などで探して読むこと講義を振り返り、感想をまとめる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	月曜日 14:00～16:00 研究室(西館405号室)
テキスト	プリントを適宜配布します。
参考文献等	『絵本のひみつ』 余郷裕次 徳島新聞社 2010 1,000円 (ISBN:978-4-88606-127-0)『認定絵本土養成講座テキスト』 絵本専門士委員会 中央法規出版 1,800円(ISBN:978-4-8058-8225-2)
成績評価基準	作品のもつ絵本の特性を分析した上で、作品の特性を生かした紹介文を作成できること。
成績評価の方法	授業レポート(40%)、体験学習レポート(20%)、最終レポート(40%)
GPA基準	
備考	授業計画13、14の体験学習と振り返りは、日程調整をして土曜日の2～3時間を使い実施します(300円程度の費用負担有)。 80名の受講制限を設けます。学内他学科・他専攻開設科目※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。

科目名	心理学	科目ナンバー	AA021202
担当者	園田 美保		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	心理学の主な領域を網羅する。より深い人間理解のために心理学のキーワードと考え方を紹介する。ここでの人間とは、受講者自身を含み、その点では受講者にとって自己を探る手がかりを提供する。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとなるよう、受講者が心理学の各領域や方法に触れ、学びながら、考える力も身に付けられるよう、授業を構成する。講義形式だが、受講者には、積極的に自らの日常生活や身近な他者を想定し、内容の理解を行い、自らの考えを表現してもらうため、各回の内容に即したレポートを毎回求める。
授業の到達目標	1.人間の心理と行動との関係を理解する2.自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる3.他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	「心理学」オリエンテーション授業の形式、内容と計画、心理学イントロ「心理学とは？」	園田
第2回	心理学の歴史と多様な考え方心理学の始まり、当初からあって今でも影響力の強い考え方3種	園田
第3回	心理学の研究方法与領域心理学の方法論と人が人を見るまなざし、心理学の領域いろいろ	園田
第4回	動機づけ動機づけ説の各種紹介、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法	園田
第5回	情動情動の発達、情動の種類、情動と表出、表情コントロール、気分障害	園田
第6回	認知私たちは環境をどのように知るのか？ 感覚、知覚、認知の特性	園田
第7回	学習人間の行動が作られるしくみとは？ 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習	園田
第8回	知能知能の構造、知能の発達曲線、遺伝か環境か？、創造性を発揮する思考法	園田
第9回	パーソナリティ特徴の捉え方：類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法	園田
第10回	適応人間を環境との関わりで考えてみると？ 不適応反応、ストレス、防衛機制	園田
第11回	社会と人間1集団とは、集団から個人への影響	園田
第12回	社会と人間2個人や少数者が集団に与える影響：少数意見が通る時／リーダーシップ論	園田
第13回	臨床の心理学1心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解	園田
第14回	臨床の心理学2心理療法のアプローチ四者四様；精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法	園田
第15回	総括・補足、振り返り「心理学」全体の振り返り	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連	
-----------------	--

事前学習	指定された方法(Microsoft Formsなど)で授業内容と関連する質問に回答する	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	・各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める・身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する・今後の日常生活にどのように授業内容を活かせるか、考える	学習合計時間(h)	45時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。		
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。授業後やメールで時間調整できた場合も対応可能。		
オフィスアワー	水曜日 16:30~17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回、資料を配布する。		
参考文献等	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』 無藤隆ら(編著) 有斐閣 2018年 4200円(税抜き) (ISBN-10: 9784641053861) 『誠信 心理学辞典[新版]』 下山晴彦ら(編著) 誠信書房 2014年 5800円(税抜き) (ISBN-10: 4414305071) 他、各回ごとに配布資料で提示		
成績評価基準	心理学の領域ごとに、各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。		
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。		
GPA基準			
備考	・前期は、全学科合わせて80名の受講制限を設ける(受講登録者が80名を超えた場合は、抽選を行う)。ただし、教室の収容人数によってそれ以下になる場合もある。・後期は、例年、抽選もなく少人数で開講している。ただし、教室の収容人数によって希望者数が多い場合は抽選の可能性もある。・第2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。・第15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。		

科目名	体育実技	科目ナンバー	AC021003
担当者	道向 良		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	実技		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加（関わり）し、健康・体力の保持・増進ができるようにする。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業の到達目標	1. スポーツ活動の楽しさを理解する 2. 積極的に健康管理に関われるようにする
---------	------------------------------------------

ディプロマポリシー (DP)	①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	前半活動オリエンテーション、活動種目（バドミントン、バレーボール、卓球）の決定	道向
第2回	種目別活動I ルール説明、簡易ゲーム	道向
第3回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム	道向
第4回	種目別活動III ダブルス戦等（チーム内ゲーム）	道向
第5回	種目別活動IV ダブルス戦等（対抗戦）	道向
第6回	種目別活動V ダブルス戦等（対抗戦 2回戦）	道向
第7回	種目別活動VI シングル戦等（チーム内ゲーム）	道向
第8回	種目別活動VII 団体戦等	道向
第9回	後半活動オリエンテーション、活動種目（バドミントン、バレーボール、卓球）の決定、活動	道向
第10回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム	道向
第11回	種目別活動III ダブルス戦等（チーム内ゲーム）	道向
第12回	種目別活動IV ダブルス戦等（対抗戦）	道向
第13回	種目別活動V シングル戦等（チーム内ゲーム）	道向
第14回	種目別活動VI シングル戦等（入れ替え戦）	道向
第15回	種目別活動VII 団体戦等	道向

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:20～13:10 研究室（体育館101号室）
テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	受講態度等（60%） 技術・技能点（40%）
GPA基準	
備考	

科目名	社会学		科目ナンバー	AA041201
担当者	倉重 加代			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	個々人が抱えている心理的・経済的等の悩みは思いのほか社会の諸現象や諸問題と関わっていることが多い。この授業では、社会を前向きに描く上で求められる力——社会を学ぶ社会学的思考を磨き、現在の社会の仕組みと流れを冷静に見据える力——を身につけることを目指す。そのために授業の前半では社会学の基礎概念の学習を通して、後半では現代社会の分析を試みながら、社会学的な思考を身につけていく。
授業の到達目標	1.社会学の基礎概念を理解する 2.人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける 3.自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつける能力を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○		◎

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	「社会学すること」の視点を理解する	倉重
第2回	社会学の方法を学ぶ	倉重
第3回	友だちとはどのような人かを考える	倉重
第4回	親密な関係のゆくえについて学ぶ	倉重
第5回	生き方のイメージ形成について考える	倉重
第6回	教育と職業の関係について理解する	倉重
第7回	地域社会の状況について理解する	倉重
第8回	地域社会の将来を予測する	倉重
第9回	ジェンダー視点での社会の見方を理解する	倉重
第10回	ジェンダーフリーのゆくえを考える	倉重
第11回	国家の福祉政策と私の人生の関係について学ぶ	倉重
第12回	福祉社会のあり方について学ぶ	倉重
第13回	出来事の予測可能性と予測不可能性について比較する	倉重
第14回	リスク社会での対処について学ぶ	倉重
第15回	授業の総括	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○		○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つ。また、自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておくこと。教科書を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	期末試験のために授業内容の総復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	火曜日16:30～18:30 研究室(西館312号室)
テキスト	『Do! ソシオロジー——現代日本を社会学で診る〔改訂版〕』 友枝敏雄・山田真茂留編 2013年 1,800円 (ISBN 978-4-641-12496-7)
参考文献等	『自由からの逃走』フロム, E.著 日高六郎訳 東京創元社 1951年 1,870円 (ISBN : 978-4-488-00651-8) 『定本 想像の共同体』ベネディクト・アンダーソン著 白石隆・白石さや訳 書籍工房早山 2007年 2,200円 (ISBN : 978-4-904701-08-9)総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標の1.～3.は相互に関連し、1.や2.を身につけることにより、3.に掲げている事項の理解を深めることができることから、到達目標の3.「人々の間に共有される意味や形式の相対性」を理解することを成績評価基準とする。
成績評価の方法	期末試験(80%)と毎時間のコメントシート(20%)で評価する。(期末試験はレポートで代替する場合がある)
GPA基準	
備考	



科目名	日本国憲法	科目ナンバー	AA041202
担当者	池田 哲之		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	日本国憲法		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養教諭免		

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>立憲主義、公共の福祉という現代憲法学における2大概念の理解を目的に、日本国憲法の須要条項について解説してゆく。</li> <li>日本国憲法の各条項が、日々のわたしたちの暮らしにどのように関わり合っているのか、を重要判例をとおし考察する。</li> </ul>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法に関する基本知識を身につけている。</li> <li>立憲主義理念に依拠する現代憲法の意義・役割を日々の生活との関連において説明できる。</li> <li>社会における諸課題解決のための方策を、憲法を軸に構想することができる。</li> </ul>

ディプロマポリシー (DP)	①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				◎

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	鷗州憲政史にみる自由権の確立	池田
第2回	人権の諸相-自由権・社会権・参政権・請求権-	池田
第3回	日本国憲法の構造	池田
第4回	立法府（国会）の権能	池田
第5回	行政府（内閣）の権能と内閣総理大臣の権限	池田
第6回	司法府（裁判所）の権能と違憲立法審査制	池田
第7回	中間まとめ（討論）	池田
第8回	人権の享有主体	池田
第9回	私人間における憲法効-3つの判例より-	池田
第10回	精神的自由権-表現の自由・信教の自由-	池田
第11回	幸福追求権-憲法13条の可能性-	池田
第12回	経済的自由権とその規制法理	池田
第13回	生存権と生活保護法	池田
第14回	子どもの発達と教育権	池田
第15回	憲法改正の論点	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取り組むこと。配布されたレジユメの確認問題を繰り返し解くこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題または確認問題（公務員試験対策も兼ねる）にたいする解答例の配布または解説をとおし、知識・理解の整理を図る。
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。
オフィスアワー	原則として水曜日 16:30～17:30 研究室（西館414）
テキスト	『教職のための憲法』 斎藤一久ほか編著 ミネルヴァ書房 2020年 2000円（ISBN：978-4-623-08935-2）
参考文献等	
成績評価基準	立憲主義と公共の福祉の各概念の的確な把握のうえに、日本国憲法における重要条文の内容・意義を理解している。
成績評価の方法	定期試験（90%）、受講意欲・態度等（10%）。なお、再試は1回にかぎり実施する。
GPA基準	
備考	シラバスの内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。学生証不携帯による出席確認未了者は欠席扱いとします。

科目名	歴史学		科目ナンバー	AA041203
担当者	松崎 康弘			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げ、討論等も行う。
授業の到達目標	1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える

ディプロマポリシー(DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	地名研究と歴史1(地名研究の動向)	松崎
第2回	地名研究と歴史2(鹿児島における地名と歴史)	松崎
第3回	地名研究と歴史3(沖縄等における地名と歴史)	松崎
第4回	歌から読み取る地域の歴史	松崎
第5回	テレビ番組から読み取る地域の歴史	松崎
第6回	妖怪研究と歴史1(研究の視点)	松崎
第7回	妖怪研究と歴史2(映画から読み取る歴史)	松崎
第8回	妖怪研究と歴史3(妖怪から読み取る社会史)	松崎
第9回	妖怪研究と歴史4(妖怪研究とこれからの社会)	松崎
第10回	生活研究と歴史1(死をめぐる文化1: 葬儀の文化)	松崎
第11回	生活研究と歴史2(死をめぐる文化2: 「メメント・モリ」)	松崎
第12回	生活研究と歴史3(恋愛・結婚をめぐる文化)	松崎
第13回	生活研究と歴史4(伝統芸能)	松崎
第14回	生活研究と歴史5(食の歴史)	松崎
第15回	まとめ(自らの生活と結びつく歴史)	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	(持っていれば中学校・高校の歴史・日本史教科書を使って)基礎的な日本史の知識を確認しておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験のために復習するとともに、授業で紹介した以外の(自分の居住地域に即した)素材を探す。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日・金曜日 12:20~13:10 研究室(西館411号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『地名の魅力』 谷川彰英 白水社 2002年 『妖怪文化入門』 小松和彦 せりか書房 2006年 (ほか)
成績評価基準	・授業内容に即して歴史学の方法を理解していること。 ・授業をもとに自己や社会の在り方を自分なりに考えていること。
成績評価の方法	定期試験(100%) レポートで代替する場合がある
GPA基準	
備考	

科目名	総合教養 I		科目ナンバー	AA011006
担当者	松下 大作			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	正しい言葉の使い方や広い知識を身につける。社会人として必要な基礎的教養と広い視野を持った合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。
授業の到達目標	(1)正しい漢字の利用や言葉の知識を身につける。(2)資料からの情報を分析する力を身につける。(3)基礎的な地理・歴史の知識を身につける。(4)現代社会の政治や経済の流れを理解できている。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 国語1(間違いの多い漢字の読み・書き)	松下
第2回	国語2(類義語・反対語)	松下
第3回	国語3(四字熟語・敬語の正しい利用)	松下
第4回	国語4(ことわざ・慣用句・故事成語)	松下
第5回	資料解釈1(数表)	松下
第6回	資料解釈2(グラフ)	松下
第7回	地理1(日本地理)	松下
第8回	地理2(世界地理)	松下
第9回	歴史1(日本史)	松下
第10回	歴史2(世界史)	松下
第11回	政治・経済1(政治の流れ)	松下
第12回	政治・経済2(消費生活)	松下
第13回	政治・経済3(政治の流れ)	松下
第14回	総合演習1	松下
第15回	総合演習2	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	大学や専門学校等で40年の教養や面接指導経験を活かし、社会人としての必要な基礎知識を養う。		
事前学習	新聞やニュース番組を毎日見る。(15時間) 高校の教科書を読む。持っていない教科は友人等から譲り受ける(30時間)	学習合計時間(h)	45時間
事後学習	既受講内容について復習し、次回の確認テストに備える。(15時間)	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の確認テストを実施する。
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。
オフィスアワー	
テキスト	授業毎に必要な資料を配布。
参考文献等	随時紹介する
成績評価基準	正しい表現力が身についている。基礎的な知識や思考力が理解できている。
成績評価の方法	授業参加度50点 確認テスト20点 定期試験30点
GPA基準	
備考	

科目名	総合教養Ⅱ		科目ナンバー	AA012007
担当者	松下 大作			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	正しい言葉の使い方や広い知識を身につける。社会人として必要な基礎的教養と広い視野を持った合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。就職において、面接や小論文対策としての自己分析や自己PR・人物重視の模擬対策など実践力を養う。
授業の到達目標	(1)正しい漢字の利用や言葉の知識を身につける。(2)資料からの情報を分析する力を身につける。(3)基礎的な地理・歴史の知識、現代社会の政治や経済の流れを理解できている。(4)自己分析が確立され、それをもとに自己PRが行うことができる。

ディプロマポリシー(DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 国語5(よく出題される漢字の読み・書き)	松下
第2回	国語6(言葉の意味、外来語)	松下
第3回	国語7(論説文の重要語)	松下
第4回	資料解釈3(図表)	松下
第5回	資料解釈4(グラフ)	松下
第6回	地理3(日本地理・世界地理)	松下
第7回	歴史3(日本史・世界史)	松下
第8回	政治・経済4(政治の流れ)	松下
第9回	政治・経済5(経済の流れ)	松下
第10回	政治・経済6(経済学基礎)	松下
第11回	人物対策1(自己分析・自己PR)	松下
第12回	人物対策2(エントリーシート・面接カードの作成)	松下
第13回	人物対策3(模擬面接・面接対策)	松下
第14回	総合演習3	松下
第15回	総合演習4	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	大学や専門学校等で40年の教養や面接指導経験を活かし、社会人としての必要な基礎知識を養う。5000人を超える面接指導経験をもとに採用面接に対する実践力を養う。		
事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。(15時間) 高校の教科書を読む。持っていない教科は友人等から譲り受ける(30時間)	学習合計時間(h)	45時間
事後学習	既受講内容について復習し、次回の確認テストに備える。(15時間)	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の確認テストを実施する。
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。
オフィスアワー	
テキスト	授業毎に必要な資料を配布。
参考文献等	随時紹介する
成績評価基準	正しい表現力が身についている。基礎的な知識や思考力が理解できている。自己分析をもとに自己PRが行うことができる。
成績評価の方法	授業参加度50点 確認テスト20点 定期試験30点
GPA基準	
備考	



科目名	AI社会論	科目ナンバー	AA041204
担当者	根本 大志		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	「AI社会論」ではAIとは何か、現在の諸企業が取り組んでいる具体的事例について学ぶ。DXの必要性や、今後の将来性、問題点を総合的に俯瞰し、実社会に出てから役立つ知識を体得する。また今日におけるAI等のデジタルツールが及ぼす社会的影響についても学ぶ。特に、人工知能の特性や多様な側面を知ること、今後代替されていく将来の職業や求められる人材についても考える。
授業の到達目標	1. DXとは何か、概念や役割、重要性を理解する。2. AIの歴史的側面や得意分野や課題を理解する。3. 現在使われているAIツールや普及しているBIツールに関して自分の意見を述べられる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス：講義の流れと概要	根本
第2回	コンピューターとITに関する基礎知識	根本
第3回	産業構造の変化とICT	根本
第4回	BIツールとその普及率	根本
第5回	AIとは何か、事例1(エキスパートシステム、遺伝的アルゴリズム)	根本
第6回	AIとは何か、事例2(機械学習と深層学習)	根本
第7回	AIのできないこと、人間の強み	根本
第8回	DXの概念、その影響や課題	根本
第9回	データ駆動型社会、データの重要性	根本
第10回	ビッグデータとクラウド	根本
第11回	ソーシャルメディアとパーソナルデータ	根本
第12回	AI時代における個人情報、EUのGDPRを事例として	根本
第13回	AIコンテンツが生成するデジタルコンテンツ	根本
第14回	AI時代における人材と今後のキャリア	根本
第15回	授業の総括	根本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	△	△	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIに関する研究経験を活かす。		
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		

オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良
テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「超AI入門—ディープラーニングはどこまで進化するのか」松尾豊(著)NHK出版 2019年 \1320   SBN978-4140817711 「Google Colaboratoryで学ぶ! あたらしい人工知能技術の教科書 機械学習・深層学習・強化学習で学ぶAIの基礎技術」我妻幸長(著)翔泳社 2021年 \3740 978-4798167206
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
GPA基準	
備考	

科目名	海外事情	科目ナンバー	AA042010
担当者	黒川 太郎、藤川 和也		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	演習		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	—		

授業の概要	本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養うことを目的とするものです。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性を学習したのち、研修実施国及び時期は追って連絡します。、履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う予定です。
授業の到達目標	1. 異文化に接し、異文化への理解を深める2. 体験的に国際感覚を養う3. 自らの専門分野について国際比較の観点から理解を深める

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	事前説明 海外研修の流れと実施国の国情(10月)	黒川・藤川
第2回	実施国の文化	黒川・藤川
第3回	実施国の歴史	引率教員
第4回	実施国の言葉	引率教員
第5回	実施国の食生活	引率教員
第6回	実施国の伝統文化	引率教員
第7回	実施国の教育事情	引率教員
第8回	実施国の観光施設訪問	引率教員
第9回	実施国の文化施設訪問	引率教員
第10回	実施国の教育機関訪問	引率教員
第11回	実施国の現地料理実習	引率教員
第12回	実施国の言語学習	引率教員
第13回	実施国の交流	引率教員
第14回	日本文化の紹介	引率教員
第15回	研修成果の発表	黒川・藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	在外公館での勤務経験を活かし、外国でのトラブルを事前指導に盛り込む。		
事前学習	インターネットやニュース、書籍を通し、実施国に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した内容をまとめ、発表する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	適宜、個人個人に直接コメントしてフィードバックする。		
質問・相談方法	オフィスアワーに研究室にて対応		
オフィスアワー	木曜日(後期) 13:10~14:40 黒川研究室(西館307号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『地球の歩き方 ガイドブック D10 台湾 2019年～2020年版』 ダイヤモンド社 2019年 1700円(税抜き) ISBN : 978-4-478-82314-9 (令和元年度)
成績評価基準	国際交流に関する視野の広がり国際理解に関する知見
成績評価の方法	研修中の活動(60%) 事前研修(20%) レポート(20%)
GPA基準	
備考	最小催行人数：6名1. 参加学生数や研修実施国、新型コロナウイルス感染症の情勢により、開講されない可能性もある2. 本科目の開講の有無については後期開始時に連絡する3. 本科目に興味を持つ学生は、連絡等のため初回の履修登録時に履修登録をする(後日取消可能)4. 初回の履修登録期間中に登録しない者は、原則として追加登録を認めない5. 説明会2回(10月予定)および、事前説明会(2月)を実施予定6. 参加にはパスポートが必要であるため、未取得者はパスポートの取得が求められる

科目名	公共人類学	科目ナンバー	AA041206
担当者	岩切 朋彦		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	文化を通して人類とは何かを問う「文化人類学」は、これまでさまざまな理論を蓄積してきました。「公共人類学」は、そうした文化人類学の理論を、さまざまな社会問題を解決するための手段として応用させた学問です。「多文化共生」が叫ばれる現代において、公共人類学の理論と思考法は、多様化する社会を生き抜くために大いに役に立つものです。この講義では、文化を巡る多様な社会問題に焦点を当てつつ、人類学的に思考し実践するとはどういうことなのかを教授していきます。
授業の到達目標	1. 公共人類学の成り立ちと目的について理解する2. 異文化を巡る問題について、自らの経験を踏まえて考え、意見を述べることができる。3. 多文化共生社会を実現していくためにはどのようにすべきか自分なりの考えを述べることができる

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画	担当者	
第1回	公共人類学とはなにかーイントロダクションとして	岩切
第2回	「グローバル化」する世界ーグローバル化とローカル化	岩切
第3回	「多文化化」する日本と多文化共生政策	岩切
第4回	「働く留学生」と多文化共生	岩切
第5回	技能実習生を巡る諸問題	岩切
第6回	食の多様性と異食文化理解	岩切
第7回	食とアイデンティティの複雑な関係	岩切
第8回	文化と医療行為の関係性-医療人類学の基礎知識	岩切
第9回	多様な文化をまとった多様な身体-障害と公共人類学	岩切
第10回	性的マイノリティは「異常」ではないーセクシャリティとジェンダー	岩切
第11回	幻想としての「日本人」-国民国家とナショナリズム	岩切
第12回	植民地主義を乗り越えて-ポストコロニアルな世界状況	岩切
第13回	なぜ英語を勉強しなければならないのか-英語帝国主義論(ディスカッションあり)	岩切
第14回	宗教と民族を巡る紛争	岩切
第15回	講義のまとめ	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞やテレビなどのニュースをしっかりとチェックする	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義で学んだ理論を周囲の人々に口頭で説明する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワー等に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーに対応する
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室(西館407号室)
テキスト	特に使用しない。プリント配布、視聴覚教材
参考文献等	『公共人類学』東京大学出版会、20143200円(税抜)ISBN978-4-13-052305-9
成績評価基準	・講義で学んだ知識を日常生活で実践できること ・自然だと考えられていた文化が、人間によって構築されてきたものだということを理解できること
成績評価の方法	受講態度(20%) 試験(80%)
GPA基準	
備考	受講態度は減点式です。たとえば私語がひどい場合などに減点します。

科目名	英語の文学とメディア		科目ナンバー	AA011202
担当者	勝久 愛			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業の目的は、様々な文学作品・メディア(映画、歌、新聞・雑誌など)に触れることで受講者の英語リテラシーを養うことです。授業は主に、1英語で書かれたり話されたりする内容について解釈を行ったり情報を読み取ったりする活動、2得られた知見を踏まえて行う日本語・英語での表現活動で構成されています。この授業を通して、受講者が様々な英語作品・表現に触れたり、それらを味わいながら豊かな教養を身に付けることを目指しています。
授業の到達目標	1. 英文の訳読などの活動を通し、より優れた言語感覚を身に付ける。2. 英文の字義理解を超えた解釈を行う中で、より高い読解能力を身に付ける。3. 英文の解釈に基づいた議論や発表を通して、より高い表現力を身に付ける。4. 英語を用いた様々な作品に触れることによって、異文化感受性や国際的志向性を高める。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	勝久 愛
第2回	歌と詩?歌を歌う・詩を詠む-	勝久 愛
第3回	カートゥーン-漫画を読む-	勝久 愛
第4回	カートゥーン-アニメを観る-	勝久 愛
第5回	ジャーナル-ニュース記事を読む-	勝久 愛
第6回	ジャーナル-議論する?	勝久 愛
第7回	小説?物語を読む-	勝久 愛
第8回	小説?物語を解釈する?	勝久 愛
第9回	小説?朗読劇をする?	勝久 愛
第10回	小説?朗読劇をする	勝久 愛
第11回	映画?映画を観る-	勝久 愛
第12回	映画?パンフレットを作成する?	勝久 愛
第13回	プレゼンテーションの準備?リソース(歌・詩、カートゥーン、ジャーナル、小説、映画)を集める-	勝久 愛
第14回	プレゼンテーションの準備?資料を作成する?	勝久 愛
第15回	プレゼンテーションの準備?発表する?	勝久 愛

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する資料において、分からない単語等を調べてくる。教員からの指示がある場合、次回の授業で行う活動に必要な情報	学習合計時間(h)	30時間

	を調べたり、考えを整理したりする。		
事後学習	授業内容をふりかえり、学んだことを整理する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	小レポートに対し教員からのコメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	特になし(配布するハンドアウトを使用する。)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	1. 語のニュアンスや日本語・英語の違いを意識したり、解釈を行ったりしながら英文を読むことができること。2. 英文から得られた知見を基に、自分の解釈や考えなどを表現することができること。		
成績評価の方法	プレゼンテーション(50%)、提出物(50%)		
GPA基準			
備考			



科目名	アメリカ文学		科目ナンバー	AA041207
担当者	松下 紗耶			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では女性が主人公であり、テーマのひとつとなっているアメリカの有名な短編(Kate Chopin"Desiree'sBaby"ErnestHemingway"CatintheRain")を2つ取り上げます。また、実際に作品を鑑賞することで、文学の楽しみ方を学び、テーマである女性について自分の意見を考えてもらいます。			
授業の到達目標	1. アメリカの分化や社会背景を理解できる2. 作品を読み、自分の意見や作品の解釈を述べることができる3. 作品について学生同士でディスカッションできる			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○		◎

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	松下
第2回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」1 ケイト・ショパンとは	松下
第3回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」2 アメリカ南部	松下
第4回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」3 ニュー・オーリンズ	松下
第5回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」4 クレオール	松下
第6回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」5 アメリカの女性(1)	松下
第7回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」6 アメリカの女性(2)	松下
第8回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」7 アメリカにおける人種(1)	松下
第9回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」8 アメリカにおける人種(2)	松下
第10回	アーネスト・ヘミングウェイ「雨の中の猫」1 アーネスト・ヘミングウェイとは	松下
第11回	アーネスト・ヘミングウェイ「雨の中の猫」2 ヘミングウェイとヨーロッパ	松下
第12回	アーネスト・ヘミングウェイ「雨の中の猫」3 ヘミングウェイの文体	松下
第13回	アーネスト・ヘミングウェイ「雨の中の猫」4 アメリカの女性(3)	松下
第14回	アーネスト・ヘミングウェイ「雨の中の猫」5 アメリカの女性(4)	松下
第15回	総括、ディスカッション	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で扱う作品を前もって読んでおく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義で学んだことを踏まえ、作品を再読する	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業内で感想カードへのコメントを行う		
質問・相談方法	オフィスアワー、授業前後の時間、及び感想カードへのコメント		
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号)		

テキスト	特になし
参考文献等	ケイト・シヨパン『目覚め』宮北恵子, 吉岡恵子訳, 南雲堂、2,800円(ISBN9784523292562)今村樞夫『ヘミングウェイと猫と女たち』新潮選書、1,000円(ISBN4106003759)倉林秀雄、河田英介『ヘミングウェイで学ぶ英文法』アスク出版、1900円(ISBN9784866392806)
成績評価基準	講義を聞き、作品への理解を深めること。また、それを踏まえた自分の意見が述べられること。
成績評価の方法	各回の提出物 50% 期末レポート 50%
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	英語演習 I	科目ナンバー	AA021004
担当者	勝久 愛		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業の目的は、四技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習します。自分や身の周りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付けます。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになることを目指しています。授業は主に教科書に沿って構成されていますが、教科書の話題や文法に関連した活動も追加で行われます。		
授業の到達目標	1. 基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解することができる。2. 英語で読み聞きする内容の概要を正しく理解することができる。3. 自分に関する情報や自分の身の周りのことを相手に英語で伝えることができる。		

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連		◎		

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画	担当者	
第1回	イントロダクション	勝久 愛
第2回	Pre-unit: 基本語順	勝久 愛
第3回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 現在形	勝久 愛
第4回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 読解、ライティング、グループワーク	勝久 愛
第5回	Unit 2: What's the Boss Like? 代名詞	勝久 愛
第6回	Unit 2: What's the Boss Like? 読解、ライティング、グループワーク	勝久 愛
第7回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	勝久 愛
第8回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 読解、ライティング、グループワーク	勝久 愛
第9回	Unit 4: Summer Fun 過去形	勝久 愛
第10回	Unit 4: Summer Fun 読解、ライティング、グループワーク	勝久 愛
第11回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞	勝久 愛
第12回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 読解、ライティング、グループワーク	勝久 愛
第13回	Unit 6: Brainstorming 進行形	勝久 愛
第14回	Unit 6: Brainstorming 読解、ライティング、グループワーク	勝久 愛
第15回	総括	勝久 愛

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。教員からの指示がある場合、次回の授業で行う活動に必	学習合計時間(h)	30時間

	要な情報を調べたり、考えを整理したりする。		
事後学習	以降の授業で活用ができるよう、学習した語彙、文法、表現等を復習する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	1. 英語の構造や文法規則を理解していること。2. 書かれたり話されたりする英文の概要を正しく理解できること。3. 自分に関する情報や自分の身の回りのことを英語で表現できること。		
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	英語演習 I		科目ナンバー	AA021004
担当者	松下 紗耶			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能を使いながら、英語の基礎を学ぶことを目的とします。「仕事で英語を使う」ことをイメージした英語表現や基本的な文法事項を学習し、学習したことをもとに、自分のことについて英語で表現できるようになることを目指します。また英語を学ぶと同時に、海外文化についても学びます。			
授業の到達目標	1. 基礎的な英文法を理解できる。2. 英語で読み聞きする内容を正しく理解できる。3. 自分の意見を相手に英語で伝えることができる。			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	松下
第2回	Pre-unit: 基本語順	松下
第3回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 現在形	松下
第4回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 読解、ライティング、グループワーク	松下
第5回	Unit 2: What's the Boss Like? 代名詞	松下
第6回	Unit 2: What's the Boss Like? 読解、ライティング、グループワーク	松下
第7回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	松下
第8回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 読解、ライティング、グループワーク	松下
第9回	Unit 4: Summer Fun 過去形	松下
第10回	Unit 4: Summer Fun 読解、ライティング、グループワーク	松下
第11回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞	松下
第12回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 読解、ライティング、グループワーク	松下
第13回	Unit 6: Brainstorming 進行形	松下
第14回	Unit 6: Brainstorming 読解、ライティング、グループワーク	松下
第15回	総括	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		

オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、白倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)
参考文献等	特になし
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。自分の意見を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	英語演習 I	科目ナンバー	AA021004
担当者	長 佳文		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能を使いながら、英語の基礎を学ぶことを目的とします。「仕事で英語を使う」ことをイメージした英語表現や基本的な文法事項を学習し、学習したことをもとに、自分のことについて英語で表現できるようになることを目指します。また英語を学ぶと同時に、海外文化についても学びます。
授業の到達目標	1. 基礎的な英文法を理解できる。2. 英語で読み聞きする内容を正しく理解できる。3. 自分の意見を相手に英語で伝えることができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	長
第2回	Pre-unit: 基本語順	長
第3回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 現在形	長
第4回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 読解、ライティング、グループワーク	長
第5回	Unit 2: What's the Boss Like? 代名詞	長
第6回	Unit 2: What's the Boss Like? 読解、ライティング、グループワーク	長
第7回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	長
第8回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 読解、ライティング、グループワーク	長
第9回	Unit 4: Summer Fun 過去形	長
第10回	Unit 4: Summer Fun 読解、ライティング、グループワーク	長
第11回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞	長
第12回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 読解、ライティング、グループワーク	長
第13回	Unit 6: Brainstorming 進行形	長
第14回	Unit 6: Brainstorming 読解、ライティング、グループワーク	長
第15回	総括	長

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		

オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、白倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)
参考文献等	特になし
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。自分の意見を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)
GPA基準	
備考	



科目名	中国語演習 I		科目ナンバー	AA021005
担当者	黒川 太郎			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養	
開講期	前期	卒業の選択・必修	卒業必修(※科目選択)	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	中国語初学者対象の授業です。簡単な挨拶表現、基本的な発音および文型を中心に教えます。日常生活で必要な語彙を身に付けることを目的に会話を中心とした授業を行います。毎回の授業では日本語との発音の違いに注意し、正確な発音の練習に時間を割き、授業の終わりには、受講者が中国語で自己紹介できることを目標とします。			
授業の到達目標	1.中国語の発音に慣れ、ローマ字ピンインで書ける。2.中国語で自己紹介し、1～10の数を正確に言える。3.簡単な挨拶表現ができる。			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶにあたって	黒川
第2回	第1課 挨拶(1)発音(声調・短母音)・ピンイン表記 「こんにちは」	黒川
第3回	第2課 挨拶(2)発音(子音・複合母音・鼻母音) 「お変わりありませんか」	黒川
第4回	第3課 挨拶(3)発音と簡単な挨拶表現 「お仕事は忙しいですか」	黒川
第5回	発音の矯正 自分の名前の中国語音の確認	黒川
第6回	第4課 初めて会う(1)疑問文 「お名前はなんとおっしゃいますか」	黒川
第7回	第5課 初めて会う(2)動詞述語文 「ちょっとご紹介します」	黒川
第8回	第1課～第5課復習(自己紹介)【会話テスト】	黒川
第9回	第6課 尋ねる(1)名詞述語文 「誕生日は何月何日ですか」	黒川
第10回	第7課 尋ねる(2)「有」文 「ご家族は何人ですか」	黒川
第11回	第8課 尋ねる(3)時間の読み方 「今何時ですか」	黒川
第12回	発音の矯正 疑問文の作り方	黒川
第13回	第9課 尋ねる(4) 連動文 「お住まいはどちらですか」	黒川
第14回	第10課 尋ねる(5) 方位詞 「郵便局はどこですか」	黒川
第15回	第6課～第10課復習(数を表す表現)【会話テスト】	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。・授業前後に新出単語の学習をする。	学習合計時間(h)	30時間	
事後学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。・授業前後に新出単語の学習をする。	学習合計時間(h)	30時間	

課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。
質問・相談方法	オフィスアワー内に対応
オフィスアワー	月曜日(前期) 13:00~17:00 黒川研究室(西館307号室)
テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き) (ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	
成績評価基準	ローマ字ピンインを正確に発音できること。自己紹介・簡単な挨拶表現ができること。
成績評価の方法	定期試験(50%)出席・遅刻などを含む受講態度を総合的に評価(30%)授業内で行う会話試験(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	韓国語演習 I		科目ナンバー	AA021006
担当者	姜 美貞			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)	姜
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)	姜
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)	姜
第4回	平音・激音・濃音、カギャ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)	姜
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)	姜
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)	姜
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)	姜
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)	姜
第9回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説	姜
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第11回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説	姜
第12回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第13回	第3課(弟もいますか)の本文解説と朗読練習、文法解説	姜
第14回	第3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第15回	まとめ、音読試験	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日 9:00-9:10、12:20-30(講義室)		
テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016、2,300円(税抜き)、ISBN : 9784255556420		
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。		
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み状況・小テスト(20%)、課題(20%)、期末試験(60%)音読試験(20%)筆記試験(40%)		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講希望者が5名以下の場合開講されません。</li> <li>・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘れず自分の成長を楽しんでください。</li> </ul>		

科目名	韓国語演習 I		科目ナンバー	AA021006
担当者	鄭 芝淑			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)	鄭
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)	鄭
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)	鄭
第4回	平音・激音・濃音、カギャ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)	鄭
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)	鄭
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)	鄭
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)	鄭
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)	鄭
第9回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説	鄭
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第11回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説	鄭
第12回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第13回	第3課(弟もいますか)の本文解説と朗読練習、文法解説	鄭
第14回	第3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第15回	まとめ、音読試験	鄭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日 9:00-9:10、12:20-30(講義室)		
テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016、2,300円(税抜き)、ISBN : 9784255556420		
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。		
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み状況・小テスト(20%)、課題(20%)、期末試験(60% :音読試験20%、筆記試験40%)		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講希望者が5名以下の場合開講されません。</li> <li>・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘れず自分の成長を楽しんでください。</li> </ul>		

科目名	韓国語演習 I		科目ナンバー	AA021006
担当者	李 賢雄			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)	李
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)	李
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)	李
第4回	平音・激音・濃音、カギャ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)	李
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)	李
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)	李
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)	李
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)	李
第9回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説	李
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第11回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説	李
第12回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第13回	第3課(弟もいますか)の本文解説と朗読練習、文法解説	李
第14回	第3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第15回	まとめ、音読試験	李

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日 9:00-9:10、12:20-30(講義室)		
テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016、2,300円(税抜き)、ISBN : 9784255556420		
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。		
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み状況・小テスト(20%)、課題(20%)、期末試験(60% :音読試験20%、筆記試験40%)		
GPA基準			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講希望者が5名以下の場合開講されません。</li> <li>・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘れず自分の成長を楽しんでください。</li> </ul>		



科目名	日本語演習 I		科目ナンバー	AR021007
担当者	村本 茜			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目 [留学生特別科目]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、日本語学校で習ったN2レベルの日本語の文型をもう一度勉強し、しっかり使えるようにします。そのあと、N1レベルの文型を学んでいきます。短期大学の授業では、日本語学校で習ったことがない専門的な語いも覚える必要がありますから、その勉強もします。また、漢字は問題集を使い、書くよりも、読む練習をたくさんします。			
授業の到達目標	1. JLPTのN1～N2レベルの日本語の文型をおぼえ、使えるようになる2. 短期大学の授業で使われる語いをおぼえ、理解できるようになる3. 読める漢字の量をふやす			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます	村本
第2回	行為の対象 文型：～にこたえて・～をめぐる・～にかかわる 語いと漢字1	村本
第3回	目的・手段・媒介 文型：～上で・～べく・～をもって 語いと漢字2	村本
第4回	起点・終点・限界・範囲 文型：～をはじめ・～からして・～を限りに 語いと漢字3	村本
第5回	時間的同時性・時間的前後関係 文型：～とともに・～と思ったら・～次第 語いと漢字4	村本
第6回	進行・相関関係 文型：～つつある・～ようとしている・～ばかりだ 語いと漢字5	村本
第7回	付帯・非付帯 文型：～つつ・～ぬきで・～をぬきにして 語いと漢字6	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	限定 文型：～に限り・～かぎり(は)・～かぎりでは・ただ～のみ 語いと漢字7	村本
第10回	非限定・付加 文型：～に限らず・～のみならず・～にとどまらず 語いと漢字8	村本
第11回	比較・程度・対比 文型：～くらいなら・～にもまして・～ないまでも 語いと漢字9	村本
第12回	基準 文型：～に沿って・～に基づいて・～を踏まえて 語いと漢字⑩	村本
第13回	関連・対応 文型：～次第では・～に応じて・～を契機に(して) 語いと漢字⑪	村本
第14回	無関係・無視・例外 文型：～にかかわらず・～はともかく・～いかんによらず 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強してください	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください
オフィスアワー	
テキスト	特になし(プリントを配ります)
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 ( I S B N : 978-4757418905)
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度(20%) 中間テスト(40%) 課題レポート(40%)
GPA基準	
備考	受講対象者 留学生のみ

科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	AA022009
担当者	勝久 愛		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業の目的は、前期に引き続き、四技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習します。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身につけます。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになることを目指しています。授業は主に教科書に沿って構成されていますが、教科書の話題や文法に関連した活動も追加で行われます。
授業の到達目標	1. 英語の文法規則や英語表現を理解し、活用できる。2. 英語で読み聞きする内容の概要や詳細を正しく理解できる。3. 身近な話題や自分の意見を相手に英語で伝えることができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連		◎		

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション、Unit 7: Glad to Be of Service WH疑問文	勝久愛
第2回	Unit 7: Glad to Be of Service 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第3回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞	勝久愛
第4回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第5回	Unit 9: Vacation Spots 未来形	勝久愛
第6回	Unit 9: Vacation Spots 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第7回	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級	勝久愛
第8回	Unit 10: Sports Talk 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第9回	Unit 11: Tour Day 助動詞	勝久愛
第10回	Unit 11: Tour Day 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第11回	Unit 12: Party Time! 現在完了形	勝久愛
第12回	Unit 12: Party Time! 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第13回	Unit 13: Office Meeting 関係詞	勝久愛
第14回	Unit 13: Office Meeting 読解、ライティング、グループワーク	勝久愛
第15回	総括	勝久愛

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。教員からの指示がある場合、次回の授業で行う活動に必要な情報を調べたり、考えを整理したりする。	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	以降の授業で活用ができるよう、学習した語彙、文法、表現等を復習する。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		
オフィスアワー	金曜日 14:40~16:10 研究室(西館408号室)		
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、白倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	1. 英語の文法規則や英語表現を理解し、活用できること。2. 書かれたり話されたりする英文の概要や詳細を正しく理解できること。3. 身近な話題や自分の意見を英語で表現できること。		
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)		
GPA基準			
備考			

科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	AA022009
担当者	松下 紗耶		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業では前期に引き続き、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能を使いながら、英語の基礎を学ぶことを目的とします。「仕事で英語を使う」ことをイメージした英語表現や基本的な文法事項を学習し、学習したことをもとに、自分のことについて英語で表現できるようになることを目指します。また英語を学ぶと同時に、海外文化についても学びます。
授業の到達目標	1. 基礎的な英文法を理解できる。2. 英語で読み聞きする内容を正しく理解できる。3. 自分の意見を相手に英語で伝えることができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション、Unit 7: Glad to Be of Service WH疑問文	松下
第2回	Unit 7: Glad to Be of Service 読解、ライティング、グループワーク	松下
第3回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞	松下
第4回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 読解、ライティング、グループワーク	松下
第5回	Unit 9: Vacation Spots 未来形	松下
第6回	Unit 9: Vacation Spots 読解、ライティング、グループワーク	松下
第7回	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級	松下
第8回	Unit 10: Sports Talk 読解、ライティング、グループワーク	松下
第9回	Unit 11: Tour Day 助動詞	松下
第10回	Unit 11: Tour Day 読解、ライティング、グループワーク	松下
第11回	Unit 12: Party Time! 現在完了形	松下
第12回	Unit 12: Party Time! 読解、ライティング、グループワーク	松下
第13回	Unit 13: Office Meeting 関係詞	松下
第14回	Unit 13: Office Meeting 読解、ライティング、グループワーク	松下
第15回	総括	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)
参考文献等	特になし
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。自分の意見を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	AA022009
担当者	長 佳文		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業では前期に引き続き、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能を使いながら、英語の基礎を学ぶことを目的とします。「仕事で英語を使う」ことをイメージした英語表現や基本的な文法事項を学習し、学習したことをもとに、自分のことについて英語で表現できるようになることを目指します。また英語を学ぶと同時に、海外文化についても学びます。
授業の到達目標	1. 基礎的な英文法を理解できる。2. 英語で読み聞きする内容を正しく理解できる。3. 自分の意見を相手に英語で伝えることができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション、Unit 7: Glad to Be of Service WH疑問文	長
第2回	Unit 7: Glad to Be of Service 読解、ライティング、グループワーク	長
第3回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞	長
第4回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 読解、ライティング、グループワーク	長
第5回	Unit 9: Vacation Spots 未来形	長
第6回	Unit 9: Vacation Spots 読解、ライティング、グループワーク	長
第7回	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級	長
第8回	Unit 10: Sports Talk 読解、ライティング、グループワーク	長
第9回	Unit 11: Tour Day 助動詞	長
第10回	Unit 11: Tour Day 読解、ライティング、グループワーク	長
第11回	Unit 12: Party Time! 現在完了形	長
第12回	Unit 12: Party Time! 読解、ライティング、グループワーク	長
第13回	Unit 13: Office Meeting 関係詞	長
第14回	Unit 13: Office Meeting 読解、ライティング、グループワーク	長
第15回	総括	長

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)
参考文献等	特になし
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。自分の意見を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)
GPA基準	
備考	



科目名	中国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022010
担当者	黒川 太郎			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養	
開講期	後期	卒業の選択・必修	卒業必修(※科目選択)	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	中国語演習Ⅰの履修者が受講する科目です。演習Ⅰと同じの教科書を用い、新しい表現と文法を学び、引き続き正確な発音練習を授業内で行います。また、日常生活や旅行で役立つような簡単な表現を中心に教えると同時に配布資料を通じて新たな語彙の習得を目指します。この授業の終わりには、受講者が中国語母語者を相手に簡単な受け答えができるようになることを目標としています。			
授業の到達目標	1.本文を正確に読むことができる。2.基本的な文型を使った表現ができる。3.日常会話に必要な単語を覚え、正確に発音できる。			

ディプロマポリシー(DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	前期の復習(1課～10課)	黒川
第2回	第11課 必要(1)語気助詞「了」「みかんを買いたいです」	黒川
第3回	第12課 必要(2)主述述語文「セーターを買いたいです」	黒川
第4回	第13課 必要(3)能願助詞「会」「乗り換えが必要です」	黒川
第5回	旅行時の会話表現	黒川
第6回	第14課 必要(4)兼語文「両替に行きたいです」	黒川
第7回	第15課 必要(5)「是」文「写真を撮りたいです」	黒川
第8回	復習第11課～第15課【会話テスト】	黒川
第9回	第16課 約束(1)動態助詞「?」「京劇を見たことがありますか」	黒川
第10回	第17課 約束(2)選択疑問文「動物園に行きます」	黒川
第11回	買い物での表現、お金の言い方	黒川
第12回	第18課 迎える(1)文型「要～了」「道中お疲れさまでした」	黒川
第13回	第19課 迎える(2)動量補語「歓迎いたします」	黒川
第14回	第20課 程度補語「私たちの友情のために乾杯」	黒川
第15回	復習第16課～第20課【会話テスト】	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・教科書付属のCDを聞いて声調等の発音を身につける・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・教科書付属のCDを聞いて声調等の発音を身につける・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応。
オフィスアワー	木曜日(後期) 13:10~14:40 黒川研究室(西館307号室)
テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	
成績評価基準	教科書内の文章を正確に読むことができる。基本的な文型を応用した表現ができる。
成績評価の方法	定期試験(50%)出席・遅刻などを含む受講態度を総合的に評価(30%)授業内で行う会話試験(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	韓国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022011
担当者	姜 美貞			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第2回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第3回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第4回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第5回	漢数詞の練習(ゲーム、会話練習)	姜
第6回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第7回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第8回	固有数詞の練習(ゲーム、会話練習)	姜
第9回	第7課(お腹がすいていませんか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第10回	第7課(お腹がすいていませんか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第11回	第8課(ご注文取って下さい)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第12回	第8課(ご注文取って下さい)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第13回	第9課(私も今来たところです)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第14回	第9課(私も今来たところです)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第15回	まとめ、音読試験	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに	学習合計時間(h)	30時間

	提出する。		
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーに対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日 13:00-13:10、16:20-30(講義室)		
テキスト	『韓国語の基礎 I』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016、2,300円(税抜き)、ISBN : 9784255556420		
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。		
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み状況・小テスト(20%)、課題(20%)、期末試験(60% :音読試験20%、筆記試験40%)		
GPA基準			
備考	「韓国語演習 I」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強など考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘れず自分の成長を楽しんでください。		

科目名	韓国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022011
担当者	鄭 芝淑			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第2回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第3回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第4回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第5回	漢数詞の練習(ゲーム、会話練習)	鄭
第6回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第7回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第8回	固有数詞の練習(ゲーム、会話練習)	鄭
第9回	第7課(お腹がすいていませんか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第10回	第7課(お腹がすいていませんか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第11回	第8課(ご注文取って下さい)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第12回	第8課(ご注文取って下さい)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第13回	第9課(私も今来たところです)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第14回	第9課(私も今来たところです)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第15回	まとめ、音読試験	鄭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに	学習合計時間(h)	30時間

	提出する。		
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーに対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日 13:00-13:10、16:20-30(講義室)		
テキスト	『韓国語の基礎 I』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016、2,300円(税抜き)、ISBN : 9784255556420		
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。		
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み状況・小テスト(20%)、課題(20%)、期末試験(60% :音読試験20%、筆記試験40%)		
GPA基準			
備考	「韓国語演習 I」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強など考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘れず自分の成長を楽しんでください。		

科目名	韓国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022011
担当者	李 賢雄			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	李
第2回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第3回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	李
第4回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第5回	漢数詞の練習(ゲーム、会話練習)	李
第6回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	李
第7回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第8回	固有数詞の練習(ゲーム、会話練習)	李
第9回	第7課(お腹がすいていませんか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	李
第10回	第7課(お腹がすいていませんか)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第11回	第8課(ご注文取って下さい)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	李
第12回	第8課(ご注文取って下さい)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第13回	第9課(私も今来たところです)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	李
第14回	第9課(私も今来たところです)の文法解説(つづき)、応用練習	李
第15回	まとめ、音読試験	李

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに	学習合計時間(h)	30時間

	提出する。		
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日 13:00-13:10、16:20-30(講義室)		
テキスト	『韓国語の基礎 I』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2016、2,300円(税抜き)、ISBN : 9784255556420		
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。		
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。		
成績評価の方法	授業への取り組み状況・小テスト(20%)、課題(20%)、期末試験(60% :音読試験20%、筆記試験40%)		
GPA基準			
備考	「韓国語演習 I」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強など考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘れず自分の成長を楽しんでください。		



科目名	日本語演習Ⅱ		科目ナンバー	AR022012
担当者	村本 茜			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目 [留学生特別科目]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、前期の「日本語演習Ⅰ」で勉強した文型よりも、少し難しいN1レベルの文型を勉強します。それぞれの学科に必要な語いを学び、読める漢字の量もさらにふやします。また、さまざまな場面での会話練習や、日本のニュース記事などを読んで、自分の意見や考えを言ったり、書いたりする練習もします。			
授業の到達目標	1. N1～N2レベルの日本語の文型をさらに勉強し、使えるようになる2. 短期大学の授業で使われる語いをさらにおぼえ、理解できるようになる3. 読める漢字の量をさらにふやす			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○ (複数可)、最も関連深いDP番号は◎ (1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	夏休みにしたことについて、発表します	村本
第2回	例示 文型：～といった・～にせよ～にせよ・～であれ～であれ 語いと漢字1	村本
第3回	程度の強調 文型：～てこそ・～までして・～すら・～極まる 語いと漢字2	村本
第4回	話題 文型：～といえば・～といったら・～のこととなると 語いと漢字3	村本
第5回	逆接・譲歩 文型：～つつも・～にもかかわらず・～にせよ・～とはいえ 語いと漢字4	村本
第6回	原因・理由 文型：～ものだから・～ばかりに・～につき 語いと漢字5	村本
第7回	仮定条件・確定条件 文型：～ないことには・～ないかぎり・～なくして(は) 語いと漢字6	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	逆接仮定条件 文型：～にしても・～にせよ・～であろうと・～ようが～まいが 語いと漢字7	村本
第10回	不可能・可能・困難・容易 文型：～がたい・～かねる・～にたえる・～にたえない 語いと漢字8	村本
第11回	傾向・状態・様子 文型：～っぽい・～気味・～きらいがある・～まみれ 語いと漢字9	村本
第12回	経過・結末 文型：～あげく・～末(に)・～に至って(は) 語いと漢字⑩	村本
第13回	否定・部分否定 文型：～ことなく・～ことなしに・～までもなく 語いと漢字⑪	村本
第14回	伝聞・推量 文型：～ということだ・～とのことだ・～とか 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	勉強した表現を、ほかの授業でたくさん使ってくださいアルバイ トなど、学校の時間じゃないときにも、よく漢字を読んでくださ い	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィード バックの方法	中間テストなどで確認します		
質問・相談方法	授業中及びオフィスアワーの時間に対応します		
オフィスアワー			
テキスト	特になし(プリントを配ります)		
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 20 13年 2500円 ( I S B N : 978-4757418905)		
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします		
成績評価の方法	授業態度(20%) 中間テスト(40%) 課題レポート(40%)		
GPA基準			
備考	受講対象者 留学生のみ		

科目名	数学基礎		科目ナンバー	AA011203
担当者	内田 豊海			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。			
授業の到達目標	1.数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う2.数学の有用性を認識する3.習得した技能を日常に応用することができる			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	数の歴史 いろいろな文化にある様々な数学	内田
第2回	不思議な数のパターン	内田
第3回	微分と積分 イメージすると計算できる	内田
第4回	迷路 出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう	内田
第5回	グラフを読む 鹿児島島の人口変動を探ろう	内田
第6回	数値を読み解く オリンピック選手を選んでみよう	内田
第7回	タングラム 図形を組み合わせてみると	内田
第8回	面積 一つの知識でどれだけのことが考えられるか	内田
第9回	確率 好きな人の隣に座れる確率は	内田
第10回	フィボナッチ数 美しいデザインの中にある秘密	内田
第11回	価値観 数を選ぶことで、自分の価値を知る	内田
第12回	関数 変化する先の予測	内田
第13回	証明 どうしたら人に説明できるだろう	内田
第14回	ベクトル 力を図示するとわかること	内田
第15回	不完全性定理 数学はどこまで正しいのだろうか	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	4時間
事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	8時間
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	月曜日 13:00~16:00(西館412号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『偏愛的数学 驚異の数』ボザマンティエ著 岩波書店 (ISBN-978-4000059817) 2200円
成績評価基準	各単元の数学的知識の理解および問題解決力の有無
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	理科基礎	科目ナンバー	AA011204
担当者	内田 豊海		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	一般教養
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんの方に興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしております。
授業の到達目標	"1.理科・科学の楽しさを実感する2.様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う3.疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する"

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	口ウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう	内田
第2回	五感で感じられることは何？ 視覚・聴覚・触覚	内田
第3回	五感で感じられることは何？ 嗅覚・味覚	内田
第4回	最先端の科学事情 今科学でできること	内田
第5回	宇宙の誕生と今、そして未来	内田
第6回	星座物語と地球誕生	内田
第7回	生物 その進化と多様性	内田
第8回	遺伝するもの、しないもの	内田
第9回	病気ってなんだろう？	内田
第10回	燃えるもの、燃えないもの	内田
第11回	化学反応式はすごい こんなことまで説明できる	内田
第12回	電化製品はどんな仕組み？ イヤホンを作ってみよう	内田
第13回	炎色反応 金属を使って花火を作ろう	内田
第14回	時間の流れは同じではない？ 相対性理論と量子力学	内田
第15回	科学的ってなんだろう？ 科学と疑似科学	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る	学習合計時間(h)	4時間
事後学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る	学習合計時間(h)	8時間

課題に対するフィードバックの方法	講義において教室全体に対するコメントとしてフィードバックしていく
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日 13:00~16:00(西館412号室)
テキスト	特になし授業中に適宜資料を配布する
参考文献等	科学雑誌『ニュートン』
成績評価基準	基礎的な知識だけでなく、科学的思考力の定着度合い、さらに理科への興味関心の具合を基準とする
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	分子からみた生物		科目ナンバー	AA011205
担当者	横峯 孝昭			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられる教養を身につける。
授業の到達目標	1. 生物について基礎的な知識を習得する2. 最近の生物に関する知見を学ぶ

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	生物と細胞	横峯
第3回	生物の体を作っているもの(異化)	横峯
第4回	生物の体を作っているもの(同化)	横峯
第5回	細胞の増え方、精子と卵のでき方	横峯
第6回	メンデルの遺伝(優性の法則、分離の法則について)	横峯
第7回	血液型で遺伝を知ろう	横峯
第8回	男の子、女の子の生まれる確率(伴性遺伝)	横峯
第9回	遺伝疾患の分類	横峯
第10回	クローン動物	横峯
第11回	臓器移植(臓器移植に関してお互いの考えを討論しよう)	横峯
第12回	生物の進化と地球環境1(生命の誕生)	横峯
第13回	生物の進化と地球環境2(全球凍結と生命)	横峯
第14回	生命の進化と地球環境3(大海からの離脱)	横峯
第15回	生物の進化と地球環境4(大量絶滅)	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	小・中学校時に学習した関連の内容について復習しておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	自ら作成した板書ノートを読み直し、次の講義へ備える	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号室)		
テキスト	特になし		

参考文献等	『休みの時間の生物学』 朝倉幹晴 講談社サイエンティフィック 2376円(税込み) (ISBN978-4061557017)
成績評価基準	本講義内において紹介・説明した生物学の一般常識を理解し、自分の言葉で説明できること
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	



科目名	SDGs論		科目ナンバー	AA042011
担当者	石田 もとな			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	持続可能な社会の構築は、現代社会における非常に大きな課題の一つである。グローバルな視点とローカルな視点の両方を兼ね備え、身近なことから持続可能な社会の構築に取り組める人材となるために必要な知識を習得し、そのために行動すべきことに関して立案、実行する。
授業の到達目標	1. SDGsとは何かを理解する2. 持続可能な社会の実現に関して自らができることを考え、行動に移すことができる3. SDGsに関する情報を発信することができる

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス SDGsとは何か、この授業では何について学ぶのか	石田
第2回	世界が百人の村だったら(SDGS1 2 3 4 5 6 7 ⑩ ⑪)	石田
第3回	世界の果ての通学路 (SDGS4)	石田
第4回	ジェンダーについて (SDGS5)	石田
第5回	企業のCSR(SDGS4 5 6 7 8 ⑩ ⑪)	石田
第6回	私たちのCSR どのようなことに取り組めるか	石田
第7回	リサイクルと環境(SDGS7 9 ⑫ ⑬ ⑭ ⑮)	石田
第8回	平和について(SDGS⑯ ⑰)	石田
第9回	SDGsを発信する方法	石田
第10回	出前授業企画	石田
第11回	出前授業LESSONプランと教材作成	石田
第12回	授業実践	石田
第13回	授業の振り返りとアドバイス	石田
第14回	持続可能でなくなった世界(映像メディアに見られる警鐘)	石田
第15回	まとめとレポート	石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	企業においての実務経験を活かし実践的な演習を行う		
事前学習	各回のテーマについて、情報収集する	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に出された課題に取り組み、内容を確実に理解する	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内に解説する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応		
オフィスアワー	火曜日 16:30~17:30 研究室(西館404号室)*要事前連絡		

テキスト	『こどもSDGs』バウンド著 秋山宏次郎監修 株式会社カンゼン 2020 ISBN978-4-86255-561-8
参考文献等	『SDGs実践入門』泉 貴嗣著 株式会社 技術評論社 2021 ISBN 978-4-297-11752-8 C0034
成績評価基準	SDGs についての知識を身につけ、それを発信できる力を身につけていること
成績評価の方法	受講態度(50%) 演習への取り組み(30%) 課題レポート(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	データサイエンス概論		科目ナンバー	AA043014
担当者	根本 大志			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「データサイエンス演習」ではデータサイエンスの基礎とその実践を学ぶ。現代社会においてデータサイエンスがいかに求められているか、またその重要性や有用性について、実際の事例を通して理解を深めてゆく。特にAI時代となっている今日において多様化する事象やデータについて、最先端の事例を交え統計手法や解析方法を紹介してゆく予定である。また、単に講義をするだけでなく、様々な数値データを可視化する演習を織り交ぜることで、受講生にとっても実用性のある実践的な講義にする。			
授業の到達目標	次のような内容を理解し、実際にデータを使って分析することを目的としています。1.データの理解やそのリテラシーの養成。2.データサイエンスを行う流れを理解する。3.データを加工し、可視化するツールを把握する。			

ディプロマポリシー (DP)	1主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画					担当者
第1回	データに関する基礎			根本	
第2回	データサイエンスと社会			根本	
第3回	ビッグデータの需要			根本	
第4回	オープンデータとその応用			根本	
第5回	データの収集からデータエンジニアリング			根本	
第6回	データサイエンスにおける統計分析			根本	
第7回	AIアプリケーションの事例			根本	
第8回	Pythonの基礎とテキストデータの取得			根本	
第9回	テキストデータの前処理と分析			根本	
第10回	テキストマイニング実践			根本	
第11回	会話データの抽出と分析			根本	
第12回	グループワークでの会話分析			根本	
第13回	形態素解析と頻度分析			根本	
第14回	ワードクラウドによるデータの可視化			根本	
第15回	様々なデータの可視化手法			根本	

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	△	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	テキスト解析の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるデータサイエンスの重要性を理解し、日常的に統計に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解	学習合計時間(h)	30時間

	を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。		
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		
テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。		
参考文献等	検討中		
成績評価基準			
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)		
GPA基準			
備考			

# 專門科目



科目名	人間関係とコミュニケーション		科目ナンバー	c02202
担当者	園田 美保			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目〔リベラルアーツ (a. 心理) 〕	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士（サービス実務）、秘書士、上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）			
授業の概要	<p>主には社会心理学や発達心理学などでの知見をもとに、対人関係を様々な視点から見ていく。その中には、親子やきょうだい、仲間関係といった関係性から見る視点、関係づくりの中で働く心理的作用という視点、コミュニケーションをスキルでとらえる視点などが含まれる。また、人間関係が幸福感やストレスと関係することについても紹介し、よりよい人生を受講者自身で切り開くため、それらを元に改めて考える材料としてもらう。受講者には、これまでの自身のコミュニケーションや人間関係について授業に沿って考えてもらい、今後の対人関係に役立つ内容として考えたことを、授業内での小レポートで表現することを求める。</p>			
授業の到達目標	<p>1.他者と関わり生きている自分、自分と関わる他者・社会について主に心理学の視点から理解する 2.日常生活での自身の行動や、これからの行動を見直す</p>			
ディプロマポリシー (DP)	① 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	② コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	③ グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	
DPとの関連		◎		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）				
授業計画				担当者
第1回	オリエンテーション インTRODクシヨン、授業計画と内容、人間関係を心理学すると？			園田
第2回	親子関係、愛着			園田
第3回	きょうだいや仲間関係 きょうだいの順序と性格、きょうだいへの親の対応、仲間関係の発展			園田
第4回	対人認知 他者のパーソナリティ認知、認知の歪み、偏見			園田
第5回	印象形成情報間の影響、印象形成の原理、自己呈示			園田
第6回	対人魅力好意を高める条件			園田
第7回	非言語コミュニケーション非言語コミュニケーションの機能や種類、社会的知能			園田
第8回	社会的スキル 人間関係のスキル、社会的スキルの訓練法			園田
第9回	主張性問題解決のためのアサーション			園田
第10回	友情と愛着友人関係の意義と成立要因、恋愛関係の類型化、恋愛のプロセスに関連する要因			園田
第11回	社会的自己 自己概念、自己の形成プロセス、自己評価、自己開示			園田
第12回	共感性共感の意義、共感の発達、共感的理解、共感的な接し方			園田
第13回	ストレスと人間関係対人ストレス、ストレス緩和要因、ストレスとつきあう方法			園田
第14回	幸福感と人間関係主観的幸福感、幸せ感と関連する要因、心理的well-being			園田
第15回	総括・振り返り「人間関係とコミュニケーション」全体を振り返って			園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各回のテーマに即した内容について考え、アンケートに答える。指定された内容のインタビューを行う。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	・各回のキーワードを5語程ピックアップし説明できる程度に理解する・コミュニケーション法において、自分の得意と苦手な分野をキーワードを使用し説明する・今後の対人関係に役立てられる方法を考える			学習合計時間(h)	45時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。				
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。授業後やメールで時間調整できた場合も対応可能。				
オフィスアワー	水曜日 16:30~17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。				
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回、資料を配布する。				
参考文献等	各回のテーマにより異なるため、配布資料で提示。下記は一部例。『大学生のためのソーシャルスキル』橋本剛 サイエンス社 2008年 1650円(税抜き) (ISBN-10: 4781911838) 『人間関係づくりトレーニング』星野欣生 金子書房 2002年 1800円(税抜き) (ISBN-10: 4760830251)				
成績評価基準	各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。上述の「授業の到達目標」が授業を反映した形で達成されたものを合格とする。				
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。				
GPA基準					
備考	・第2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。・第15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。他学科開放科目(ただし教室の収容人数により受け入れられない場合もある)				



科目名	生涯発達心理学		科目ナンバー	c02102
担当者	園田 美保			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目〔リベラルアーツ(a. 心理)〕	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ピアヘルパー受験資格			

授業の概要	人生の中で各世代にみられる特有の問題や変化について解説する。発達段階に応じた心理・社会的特徴を一生涯の時間の流れに沿って紹介する。受講者自身が自分を含めた身近な人を理解する際に一生涯における「時間」という視点が取り入れられるようになり、人間を一生涯の中の一時点という視点から捉え、人生における発達の様相を主に心の面から捉えられるようになるような授業を行う。受講者には毎回、自分や身近な他者に当てはめて考えたことを記述する小レポートを授業時間の最後の10分程度で課す。
授業の到達目標	1. 人間理解に、一生涯の時間という視点を取り入れる 2. これまでの自分について、過去にたどってきた発達という視点で捉える3. これからの自分や他者について発達の視点で捉え、理解する

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎			

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーションこれからの講義内容と講義・評価の形式、「発達」のとらえ方	園田
第2回	発達理論の概説 人生のとらえ方、フロイトの発達論、ピアジェの認知発達論、エリクソンの発達課題	園田
第3回	胎児期・新生児期子どもは小さな大人？、からだ・運動・知覚と認知の発達	園田
第4回	乳児期1運動・知覚・認知・感情の発達	園田
第5回	乳児期2ことば・自我の発達、人との結びつき	園田
第6回	幼児期1遊びと認知・自己-他者認知の発達、自我の目覚め	園田
第7回	幼児期2ことばの発達(話しことばと書きことば、内言と外言)、保育と発達	園田
第8回	児童期の発達1知的機能の発達と教育	園田
第9回	児童期の発達2 仲間関係の発達、学校という社会的環境	園田
第10回	青年期の発達1大人？、知的機能の発達、アイデンティティ(自我同一性)の確立	園田
第11回	青年期の発達2親子関係と友人関係、性役割	園田
第12回	成人期の発達職業生活、家族生活、親になること、人生半ば	園田
第13回	老年期の発達1老年期のとらえ方、知覚のエイジング、パーソナリティと加齢	園田
第14回	老年期の発達2知的機能の発達、社会的な生活、死への対応	園田
第15回	総括・振り返り「生涯発達心理学」を受けて	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・幼児期までの自分の発達について家族などから話をきいておく・今後の自分の人生でどのような成人期・老年期を迎えたいかを言葉にする・それぞれの世代の身近な他者と話をしてみる	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・各回のキーワードを5語程ピックアップし説明できる程度に理解する	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説などを加える。		
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。授業後やメールで時間調整ができたところでも対応する。		
オフィスアワー	水曜日 16:30～17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回、資料を配布する。		
参考文献等	各回のテーマや発達段階により異なるため、配布資料で提示。下記は一部例。『よくわかる発達心理学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』無藤隆・大坪治彦・岡本祐子(編著) ミネルヴァ書房 2009年 2500円(税抜き)(ISBN-10: 9784623053797) 『ライフサイクル、その完結』E.H. エリクソン・J.M. エリクソン(著) みすず書房 2001年 2800円(税抜き)(ISBN-10: 9784622039679)		
成績評価基準	現在の自分について、これまでの発達の延長にあると理解し、今後の自分の発達について、生涯発達心理学の視点から考えることができ、また、生涯発達心理学の視点から他者を理解し、適切な接し方も理解したものを合格とする。上述の「授業の到達目標」が授業を反映した形で達成されたものを合格とする。		
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度の合計(70%)と最終レポート(30%)で評価する。		
GPA基準			
備考	・第2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。・第3回目以降は第2回目の授業の資料を毎回使用する。必ず毎回持参すること。・第15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。 他学科開放科目		

科目名	カウンセリング入門		科目ナンバー	C02203
担当者	松元 理恵子			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目〔リベラルアーツ (a. 心理) 〕	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ピアヘルパー受験資格			

授業の概要	悩みを抱えた心に触れ、耳を傾け、理解しようとするときには、自分の心を見つめることを含んだ包括的な視点を持つことが大切になる。自分自身の心を見つめ直し、自己理解を深めながら、他者理解をしていく過程を「聴く」練習やワークを通して説明する。そして、心の課題にとも向き合い、日常生活の中でも実践していけるカウンセリングの演習体験を通し、人間性の尊重を軸とした心理的援助について講義する。
授業の到達目標	1.カウンセリングの基礎的理論を理解する2.カウンセリングにおける「みため」を学び、説明できる3.援助に必要な相談・面接技法を習得する

ディプロマポリシー (DP)	① 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	② コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	③ グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	
DPとの関連		○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	エンカウンターについて（体験学習）	松元
第2回	カウンセリングの理論1（精神分析）	松元
第3回	カウンセリングの理論2（自己理論）	松元
第4回	カウンセリングの理論3（論理療法）	松元
第5回	カウンセリングの理論4（行動療法、その他の療法）	松元
第6回	ピアヘルパーの心がまえ（自己肯定感を学ぶ）	松元
第7回	カウンセリングの人間観及び治療観（体験学習）	松元
第8回	カウンセリングの技法1（受容、繰り返し）	松元
第9回	カウンセリングの技法2（明確化）	松元
第10回	カウンセリングの技法3（支持）	松元
第11回	カウンセリングの技法4（質問）	松元
第12回	カウンセリングの非言語的技法（体験学習）	松元
第13回	対話上の諸問題への対処法（ロールプレイング）	松元
第14回	総合演習のロールプレイング（ケース検討を学ぶ）	松元
第15回	青年期の課題（グループワーク、ロールプレイング）	松元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士・公認心理師の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	次の授業でとりあげるテーマについて、テキストを読んで確認し	学習合計時間(h)	30時間

	ておく		
事後学習	配布されたレジュメとテキストを照合しながら読み直す	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際は質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室（西館305号室）		
テキスト	『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化 2017年 1,500円 (税抜き) (ISBN9784810013436)		
参考文献等	『ピアヘルパーワークブック』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化 2011年 1,500円 (税抜き) (ISBN9784810023862)		
成績評価基準	カウンセリングの基礎的知識や相談・面接のすすめ方についての理解が達成されたものは合格とする。		
成績評価の方法	レポート提出（60%） 講義で出された課題（レポート等）の提出状況（30%） 受講および演習態度（10%）で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考			

科目名	生涯学習概論		科目ナンバー	c02204
担当者	山元 有一			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目〔リベラルアーツ(b. 人間と社会)〕	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：司書資格			

授業の概要	生涯学習は1960年代から、余暇と労働の関係の変容を背景に成立してきたものだが、それは同時に知識の在り方の変容をも含んでいる。本講義では「生涯に渡って学ぶこと」の意義を知るとともに、それを他者にどのように伝えていくかを探る。			
授業の到達目標	・生涯学習の意味理解 ・生涯学習への意欲			

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連			◎	

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	知るとは？あるいは学ぶとは？—他者教育と自己教育	山元
第2回	知るとは？あるいは学ぶとは？(その2)—高等教育機関における学びと生涯学習	山元
第3回	知るとは？あるいは学ぶとは？(その3)—職業生活における学びと生涯学習	山元
第4回	知るとは？あるいは学ぶとは？(その4)—老年期における学びと生涯学習	山元
第5回	生涯学習の歴史と展開	山元
第6回	生涯学習支援施設とその活動内容	山元
第7回	事例研究1—音楽や絵画は楽しむものなのか？	山元
第8回	事例研究2—歴史は覚えるものなのか？	山元
第9回	事例研究3—自然科学は解くものなのか？	山元
第10回	事例研究4—ロックや映画は気休めなのか？	山元
第11回	事例研究5—美食家が生涯学習をするためには何が必要か？	山元
第12回	事例研究6—読書をしているだけで生涯学習をしていることになるのか？	山元
第13回	生涯学習の限界？—人的資源論と配分論	山元
第14回	生涯学習と政治問題・社会参与	山元
第15回	総括—生涯学習を教えることは可能か？	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。また、事後学習については講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりである。	学習合計時間(h)	

事後学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。また、事後学習については講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりである。	学習合計時間(h)	
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00(西館4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)。		
テキスト	特に使用しない。		
参考文献等	『生涯学習論入門』 今西幸蔵 法律文化社 2017年 2700円		
成績評価基準	提出されたレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。		
成績評価の方法	最終レポート(100%)		
GPA基準			
備考			

科目名	かごしまのダイナミズム	科目ナンバー	c01112
担当者	園田 美保、岩切 朋彦		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1	科目群	専門科目[リベラルアーツ(C.地域と観光)]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	—		

授業の概要	本講義では、歴史や文化、自然など、さまざまな視点から鹿児島について講義を行います。一言で「かごしま」と言っても、その中身は多様であり、しかも常に変化し続けている動的な存在です。また、グローバル社会の一員として鹿児島を捉えなおすことも重要です。鹿児島の昔と今を知り、そのダイナミズムを知ることで、その新たな魅力を受講者が発見できるよう導いていきます
授業の到達目標	1. 鹿児島に関する基本的な知識を身につけ、自分の言葉で説明することができる2. 歴史や文化、自然などを通して、鹿児島の動的な魅力を再発見することができる3. グローバルな視座からローカルとしての鹿児島を理解することができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	○		◎	

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	A・B
第2回	ドラマから見るかごしまの歴史	A・B
第3回	「映える！」鹿児島の切り取り方—フォトジェニックタウン・カゴシマ	A・B
第4回	世界史の中の鹿児島	A・B
第5回	鹿児島市には銅像が多い—鹿児島の美術	A・C
第6回	アジアの中核都市KAGOSHIMA CITYを目指して	A・B
第7回	鹿児島の郷土料理	A・C
第8回	レポート指導	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	講師の活動や著書の紹介を通して予習する。	学習合計時間(h)	15時間

事後学習	興味を持ったことについて調査する。レポートの提出をする、	学習合計時間(h)	15時間
課題に対するフィードバックの方法	各回のレポートについて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーに対応する		
オフィスアワー	責任者：近藤 火曜日 16:20～17:00 研究室(西館415号室)		
テキスト	特に使用しない。プリント配布、視聴覚教材		
参考文献等	『かごしま検定：鹿児島観光・文化検定公式テキストブック』鹿児島商工会議所編 南方新社、2008年		
成績評価基準	・鹿児島島の動的な変化を理解すること ・講義で得た知識をもとに独自の視点から鹿児島島を分析すること		
成績評価の方法	受講態度と提出物(70%) 最終レポート(30%)		
GPA基準			
備考	COC 関連科目 A:園田・岩切 B:学外講師(別添資料) C:学内講師(別添資料) * 諸般の事情により、講義と体験型授業の日程が変更になる可能性がある。		



科目名	地域とマスメディア		科目ナンバー	c01215
担当者	園田 美保、岩切 朋彦、根本 大志			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目[リベラルアーツ(C.地域と観光)]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	1	担当形態	複数	
免許・資格情報	—			

授業の概要	南日本放送の講師陣により、地域に根差した放送局の仕事内容や報道の仕組みについての講義を行う。地域社会におけるマスメディアの役割や職業への理解を深めること、また専門家の指導によりコミュニケーション能力を高めることが目的である。また、番組制作に参加するなどの体験学習を行い、地域活性化について考える機会を提供する。
授業の到達目標	1. 報道の仕組みについて理解する2. 地域の放送局の仕事の実際を理解する3. 理解力、コミュニケーション能力を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎			

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	園田・近藤・根本
第2回	ニュースは面白い！（報道部記者）	A・B
第3回	アナウンサーの仕事(MBCアナウンサー)	A・B
第4回	番組制作の裏側	A・B
第5回	ラジオ番組制作体験(グループワーク)	A・B
第6回	インターネットの取り組み	A・B
第7回	気象情報について	A・B
第8回	タレントの仕事	A・B
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前学習 講師のプロフィールを調べ、仕事内容等の知識を得ておく。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	事後学習 興味を持ったことについて調査する。	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワーで個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	近藤：火曜日 16:20～17:00 研究室(西館415号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『メディアの地域貢献「公共性」実現に向けて』 早稲田大学メディア文化研究所編 一藝社 2010 2000円(税抜き) ISBN 978-4863590250
成績評価基準	・報道の仕組みや地域の放送局の役割を理解すること・レポート等により理解力、コミュニケーション力を身につけること
成績評価の方法	受講態度・小レポート提出(70%) 最終レポート(30%)による総合評価
GPA基準	
備考	COC関連科目 担当者 A：学外講師(別添資料) B：園田 美保、岩切 朋彦、根本 大志

科目名	観光文化学		科目ナンバー	c01115
担当者	岩切 朋彦			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目[リベラルアーツ(C.地域と観光)]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	グローバル化の時代において、観光はますます巨大な文化現象となっています。観光は、経済的にも社会・文化的にも、地域に大きな影響を与える現象です。そのため、観光を論じるためにはさまざまな学問分野の知識が必要になります。この講義では、多角的かつ広範囲の視点から観光という文化現象を概説し、これからの地域の観光をどのように発展させていくべきか、受講者と一緒に考えていきます。
授業の到達目標	1. 観光という現象をさまざまな視点から理解することができる2. 観光が文化に与えるインパクトについて理解し、その意義や問題点について説明できる3. 授業で学んだことを鹿児島県の観光に当てはめて考え、それを説明することができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	○	○	◎	

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	観光とはどのような現象かーイントロダクションとして	岩切
第2回	観光はいつ始まったのかー観光の歴史	岩切
第3回	人々を観光に駆り立てるものとは何かー観光欲求と観光動機	岩切
第4回	交通システムは観光の手段であり目的でもあるー観光と交通の関係	岩切
第5回	Youは何しに鹿児島へ？ー観光地と観光資源(グループワークあり)	岩切
第6回	自然を学び、自然に癒される旅ーエコツーリズムと持続可能な観光	岩切
第7回	「演出された」ホンモノの文化ー観光の文化的インパクト	岩切
第8回	商品化された「体験」としての観光ー観光と消費	岩切
第9回	「聖地」としてのディズニーランドー聖地巡礼と観光施設	岩切
第10回	「見えざる貿易」としての観光ー観光行政とインバウンド政策	岩切
第11回	VR機器でバーチャルツアーに出かけようー観光情報産業の発展	岩切
第12回	私たちの日常空間は、観光空間でもあるー観光とまちづくり	岩切
第13回	地域の食を楽しむための観光ーフードツーリズムとその可能性	岩切
第14回	「男の旅」と「女の旅」ー観光とジェンダー	岩切
第15回	地域の観光を知るために、地域を飛び出そうー「グローバルな現象」としての観光	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	
-----------------	--

事前学習	日常生活における見慣れた風景も、観光者にとっては観光の対象となりえる。常日頃から、観光者としての視点を意識しつつ日常空間を眺めてみること。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	その日に習った内容をもとに、インターネットを通して観光商品について調べてみる	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	感想シートに対してコメントする		
質問・相談方法	授業中の質問、研究室(西館407)での対応		
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室(西館407号室)		
テキスト	特になし(プリント配布)		
参考文献等	『観光文化学』山下晋司編 新曜社、2007年 2310円(税込)ISBN-10: 4788510804		
成績評価基準	1講義内容の理解度 2地域の観光と講義内容を結び付けて思考できるかどうか 3受講態度		
成績評価の方法	定期試験(80%) 受講態度(20%)		
GPA基準			
備考	受講態度は減点式です。たとえば私語がひどい場合などに減点します。		

科目名	観光フィールドワーク		科目ナンバー	c01212
担当者	岩切 朋彦			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目[リベラルアーツ(C.地域と観光)]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	観光を論じるためにはさまざまな学問分野の知識が必要になります。しかしながら、教室の中での座学だけでは、観光という現象を理解したことにはなりません。この講義では、観光論で概説した理論を踏まえつつ、実際に地域の観光を経験するフィールドワークを行い、その魅力を再発見したり課題を見い出したりする方法論を教授します。
授業の到達目標	1. 地域の観光空間について観光論を踏まえたうえで説明することができる 2. 地域の観光空間にどのような魅力や課題があるのか発見することができる 3. 地域の観光空間をどのように発展、改善するべきか説明することができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連		◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	観光空間としての地域社会(講義形式)	岩切
第2回	鹿児島市の観光について(鹿児島市職員による講義)	岩切
第3回	鹿児島市の観光モデルコース作り	岩切
第4回	照国神社・西郷像周辺のフィールドワーク	岩切
第5回	磯周辺のフィールドワーク	岩切
第6回	桜島のフィールドワーク	岩切
第7回	天文館周辺のフィールドワーク	岩切
第8回	フィールドワークの経験をもとに、地域の観光について考察する	岩切
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	地域の見慣れた空間を、観光空間として見直すために、平日頃か	学習合計時間(h)	15時間

	ら観光者としての視点を意識しつつ日常空間を眺めてみる		
事後学習	フィールドワークの経験を通して県外や国内から来た知人を観光空間へ案内してみる	学習合計時間(h)	15時間
課題に対するフィードバックの方法	最終講義の際に地域の観光について話し合う		
質問・相談方法	授業中の質問、研究室(西館407)での対応		
オフィスアワー	金曜日 10:35~12:05 研究室(西館407号室)		
テキスト	特になし(プリント配布)		
参考文献等	『観光文化学』山下晋司編 新曜社、2007年 2310円(税込)ISBN-10: 4788510804 『観光学入門 ポスト・マスツーリズムの観光学』岡本伸之編 有斐閣 2001年 2300円		
成績評価基準	1観光モデルコース作成時における積極性2地域の観光に対して主体的に意見を述べることができるかどうか		
成績評価の方法	最終レポート(90%) 受講態度(10%)		
GPA基準			
備考	※COC科目授業計画の4?7回目は同日に、集中講義の形式で行われる(土曜日利用の予定)。		

科目名	観光とホスピタリティ		科目ナンバー	c01213
担当者	岩切 朋彦			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目[リベラルアーツ(C.地域と観光)]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	観光に係る商品の多くは、サービスで成り立っています。サービスは無形であり、購入する前に商品の質を確かめたり、作り置きすることができません。また、どのようなサービスが質の良いものであり、顧客を満足させられるかも同様ではありません。しかしながら、そのサービスの質を決める重要な要素として「ホスピタリティ・マインド」が求められることは、広く理解されています。この授業では担当者と一緒に東京の観光空間をめぐり、ホスピタリティ・マインドについての理解を深めていきます。
授業の到達目標	1. 観光に必要なホスピタリティ・マインドについて理解することができる 2. 観光空間のサービスを体験することにより、経験的にサービス商品の質について考察できる 3. 研修の経験をもとに、自分なりのホスピタリティ・マインドについて説明することができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連		◎	○	

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	「東京研修旅行」の事前説明会と事前指導	岩切
第2回	1日目：東京への移動	岩切
第3回	1日目：研修先にてホスピタリティ・マインドについての講義受講	岩切
第4回	2日目：観光施設にて参与観察	岩切
第5回	2日目：参与観察の結果をもとにしたグループワーク	岩切
第6回	3日目：東京都心にて観光フィールドワーク	岩切
第7回	3日目：鹿児島への移動	岩切
第8回	研修成果の発表およびレポート作成	岩切
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	
-----------------	--

事前学習	事前に指示された資料に目を通す	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	研修の結果をもとに、自分なりのホスピタリティ・マインドについて考察し、それをまとめる	学習合計時間(h)	15時間
課題に対するフィードバックの方法	感想シートに対してコメントする		
質問・相談方法	授業中の質問、研究室(西館407)での対応		
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室(西館407号室)		
テキスト	特になし		
参考文献等	『ディズニーランドという聖地』能登路雅子著 岩波書店 1990年 924円(税込)ISBN-10: 4004301327		
成績評価基準	1受講態度2研修内容の理解度		
成績評価の方法	研修中の活動(50%) レポート(50%)		
GPA基準			
備考	1、別途、研修費用が必要(詳細は履修登録の際に説明)2、履修者の人数や社会状況などによっては、本講義が開講されない可能性もある		



科目名	ビジネス実務総論		科目ナンバー	c01105
担当者	石田 もとな、近藤 朗			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [ビジネス・コミュニケーション]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	複数	
免許・資格情報	必修：ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)			

授業の概要	現代のビジネス社会に関する知識やワーカーとして必要なビジネス実務の基本について講義する。また刻々と変化している現代のビジネス環境やビジネス現場について解説し、その変化に対応できる実務知識や職業人としての素養を身に付けることを目的とした授業を行う。
授業の到達目標	1. ビジネス実務の概念を理解する 2. ビジネス社会の変化について、理解を深める 3. 職業人としての素養を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	近藤・石田
第2回	社会とは	近藤・石田
第3回	会社とは（業種）	近藤・石田
第4回	情報通信業	近藤
第5回	製造業	近藤・石田
第6回	メディア・広告	近藤
第7回	接客・サービス業(販売)	石田
第8回	接客・サービス業(旅行)	石田
第9回	接客・サービス業(教育・医療)	近藤・石田
第10回	金融・保険業	近藤・石田
第11回	農林水産業	近藤・石田
第12回	自営業	近藤・石田
第13回	公務員・NPOなど	近藤・石田
第14回	ディスカッション	近藤・石田
第15回	まとめ	近藤・石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	2名とも実務家教員であり、実際のビジネスの経験があることから、実際の社会・会社について現状に即した授業を行う		
事前学習	新聞等を活用し、各回のテーマに関する情報収集をする	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業の中で得た情報を基に、自分の考えをまとめる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は、その後の授業の中で解説し、質問等に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	火曜日 16:30~17:30 研究室(西館404号室)*要事前連絡
テキスト	進路支援ガイド
参考文献等	『はじめて学ぶみんなのビジネス』 株式会社晶文社1800円ISBN978-4-7949-7154-8
成績評価基準	・ビジネス社会の変化について理解すること。 ・社会人として必要な知識や技術を身につけること。
成績評価の方法	授業への参加態度(30%)小レポート(50%) 課題レポート(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	オフィス実務		科目ナンバー	c01104	
担当者	石田 もとな				
科目	—				
施行規則に定める科目区分または事項等	—				
授業形式	演習				
配当年次	1	科目群	専門科目 [ビジネス・コミュニケーション]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修		
単位数	2	担当形態	単独		
免許・資格情報	必修：上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サビズ実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディア秘書)				
授業の概要	社会人として必要な一般常識、対人コミュニケーション、文書実務について、基礎から学ぶ科目である。実社会や職場での人間関係を円滑に進める方策を身につけられるよう、演習や実習を行う。また変化の激しいビジネス社会に対応できる臨機応変な実務能力について概説し、社会の即戦力となるために必要な演習等を行う。				
授業の到達目標	1. 社会人としての基本を身につける2. 対人コミュニケーションの基本的な技術を習得する3. 事務職に必要な技能を身につける				
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—	
DPとの関連					
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)					
授業計画				担当者	
第1回	ガイダンス			石田	
第2回	キャリアと仕事へのアプローチ 働く意識・仕事への取り組み・会社の基本			石田	
第3回	仕事の基本となる8つの意識			石田	
第4回	コミュニケーションとビジネスマナー 挨拶・身だしなみ			石田	
第5回	仕事での態度・健康管理			石田	
第6回	指示の受け方と報告・連絡・相談			石田	
第7回	報告・連絡・相談 実技			石田	
第8回	ビジネスにふさわしい話し方			石田	
第9回	敬語の種類と使い方			石田	
第10回	来客対応・訪問のマナー			石田	
第11回	仕事への取り組み			石田	
第12回	電話対応1			石田	
第13回	電話対応2			石田	
第14回	電話対応実技			石田	
第15回	情報・メディアの活用・環境・経済 ビジネス用語			石田	
授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○		○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	企業においての実務経験を活かし、実践的な演習を行う。				
事前学習	事前 各回のテーマについて、情報収集すること			学習合計時間(h)	30時間

事後学習	事後 授業中に出された課題に取り組み、内容を確実に理解すること	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内に解説する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	火曜日 16:30~17:30 研究室(西館404号室)*要事前連絡		
テキスト	『ビジネス能力検定 ジョブパス3級公式テキスト』 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 2000円(ISBN978-4-8005-9058-9) 『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版 500円(ISBN978-4-7766-1101-1)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	社会人として必要な知識技術について理解していること		
成績評価の方法	受講態度(50%) 演習テスト(30%) 課題レポート(20%) レポート等で代替とする場合もある		
GPA基準			
備考			

科目名	ビジネスワーク		科目ナンバー	c01203
担当者	石田 もとな			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [ビジネス・コミュニケーション]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ビジネス実務士・上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士(サービス実務)・上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書)			

授業の概要	時代の変化に応じたビジネス実務能力を身につけ、ビジネス社会の即戦力となるよう、教材による演習を行う。また1年前期の「オフィス実務」で身につけたビジネスの基礎知識を発展させ、社会人として必要な企画力やマネジメント能力を身につけることを目的として、グループワークやディスカッションを行う。			
授業の到達目標	1. 効果的な対人コミュニケーションの技術を身につける2. 情報機器を活用したビジネス実務能力を身につける3. 企画力・マネジメント能力を身につける			

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連				

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス	石田
第2回	仕事の進め方 (PDCA)(事例研究)	石田
第3回	会議と会合(1)会議の種類、事前準備	石田
第4回	会議と会合(2)運営	石田
第5回	総合演習(1)イベント企画	石田
第6回	総合演習(2)イベント運営	石田
第7回	スケジュールリング(1)調整	石田
第8回	スケジュールリング(2)作成	石田
第9回	仕事の分担について	石田
第10回	イベント実施後の振り返り	石田
第11回	イベント関係者へのお礼状作成	石田
第12回	報告書作成	石田
第13回	マニュアル作成	石田
第14回	総合演習1	石田
第15回	総合演習2	石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	企業においての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。		
事前学習	事前 各回の授業内容に関する資料を収集しておくこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	事後 授業で学んだことを、日常生活の中で活用すること	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は、その後の授業の中で解説し、質問等に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	火曜日 16:30~17:30 研究室(西館404号室)*要事前連絡
テキスト	『ビジネス能力検定 ジョブパス3級公式テキスト』 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 2000円(ISBN978-4-8005-9058-9) 『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版 500円(ISBN978-4-7766-1101-1)
参考文献等	特になし
成績評価基準	・グループワークやディスカッションに積極的に参加できること ・イベント運営を通して企画運営力を身につけることができた と判断できた場合には合格とする。
成績評価の方法	受講態度(50%) 演習テスト(30%) 課題レポート(20%)
GPA基準	
備考	自分たちでイベントを決定し実行方法を考え、実際に企画運営をすることを通して仕事の仕組み・分担の仕方を経験する

科目名	秘書総論		科目ナンバー	c01106
担当者	石田 もとな			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [ビジネス・コミュニケーション]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：秘書士・上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書)			

授業の概要	秘書業務に関する基礎知識と専門知識について講義する。職場で信頼される秘書としての能力に関する理解を促すことが目的である。また現代社会における変化の様相について概説し、秘書の果たすべき役割や将来のキャリア形成について考える機会を提供する。
授業の到達目標	1. 職場における秘書の役割を理解する 2. 秘書業務に関する基礎知識と専門知識を身につける 3. 臨機応変に対応できる実務能力を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連				

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス	石田
第2回	企業の仕組みと秘書 人事・労務・会計・財務の知識	石田
第3回	企業法務・マーケティング・情報処理の知識 用語	石田
第4回	秘書の業務(1)会議	石田
第5回	秘書の業務(2)社内文書	石田
第6回	秘書の業務(3)社外文書	石田
第7回	資料作成	石田
第8回	慶事と弔事	石田
第9回	秘書に必要な知識 日程管理 officeの環境	石田
第10回	秘書に必要な能力	石田
第11回	男女共同参画社会における秘書・国際化・専門分化	石田
第12回	秘書の働き方の変化(ディスカッション)	石田
第13回	秘書のホスピタリティの表し方(ディスカッション)	石田
第14回	秘書とキャリア	石田
第15回	まとめ	石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○		○		

担当教員の実務経験と授業の関連	企業においての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。		
事前学習	各回に示されているテーマについて、情報収集をしておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に指示された課題に取り組むこと。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は、その後の授業の中で解説し、質問等に対応する。
質問・相談方法	授業後とオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	火曜日 16:30~17:30 研究室(西館404号室)*要事前連絡
テキスト	『これで合格! 秘書検定2級・3級 頻出ポイント&実戦問題 改訂新版?』単行本(ソフトカバー) 2019 横山 都著 高橋出版
参考文献等	
成績評価基準	・秘書業務について理解を深め、実務能力を身につけること。 ・秘書に関する知識については、秘書技能検定2級程度の理解を合格基準とする。
成績評価の方法	授業への参加態度(30%)小レポート(40%)課題レポート(30%)
GPA基準	
備考	他学科開放科目



科目名	ビジネス英語		科目ナンバー	c03201
担当者	松下 紗耶			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目 [ビジネス・コミュニケーション]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)			

授業の概要	この授業では接客の場における英語を学習し、英語でコミュニケーションをとることができるようになることを目的とします。接客の場で英語を使って対応する際の基本的な表現や説明の仕方を学ぶ教科書を用い、必要なボキャブラリーや表現を身につけた上で、ペアワーク等で実際に英語を話すことにより、日常やビジネスシーンにおける英語コミュニケーション能力を養います。
授業の到達目標	1. 日常的に使われるボキャブラリーを使用することができる2. 自分の伝えたいことを英語で言うことができる3. 英語でコミュニケーションをとることができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎	◎	

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	松下
第2回	Unit 1 交通案内、グループワーク	松下
第3回	Unit 2 ホテルでのチェックイン、グループワーク	松下
第4回	Unit 3 ホテル内の施設やサービス案内、グループワーク	松下
第5回	Unit 4 街歩きのための道案内、グループワーク	松下
第6回	Unit 5 観光スポットを薦める、グループワーク	松下
第7回	Unit 6 日本食の紹介1、グループワーク	松下
第8回	Unit 7 日本食の紹介2、グループワーク	松下
第9回	Unit 8 国内旅行の手配、グループワーク	松下
第10回	Unit 9 旅館について、グループワーク	松下
第11回	Unit 10 日本文化体験1、グループワーク	松下
第12回	Unit 11 日本文化体験2、グループワーク	松下
第13回	Unit 12 ショッピング、グループワーク	松下
第14回	Unit 13 けがや病気の対応、グループワーク	松下
第15回	総括、スピーキング活動	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指定された範囲の問題を解いておくこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内で使用した表現等をもう一度実際に発話してみる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を提出してもらい、返却する
質問・相談方法	授業前後、授業中、およびオフィスアワー。
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)
テキスト	『Hospitality on the Scene 現場から学ぶ観光英語の実践レッスン』 上杉恵美、阿部佳、涓東史江、松島康彦、神末武彦、Jacob Schere 著、金星堂、2,200円(税別)(ISBN978-4-7647-4067-9)
参考文献等	特になし
成績評価基準	接客の場や日常会話で使うボキャブラリー、言い回しが理解できること。自分の伝えたいことが英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(10%) 課題、ペアワーク(30%) スピーキング活動(10%)
GPA基準	
備考	

科目名	情報科学概論		科目ナンバー	c01110	
担当者	近藤 朗				
科目	—				
施行規則に定める科目区分または事項等	—				
授業形式	講義				
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修		
単位数	2	担当形態	単独		
免許・資格情報	必修：ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)、情報処理士、司書資格				
授業の概要	情報化社会の進展に伴い、コンピュータやインターネットが社会のいろいろなところで利用され、社会生活において必要不可欠なものになっています。そこで、情報の本質的・基本的な性質をもとに、コンピュータの専門家ではない一般社会人が知っておくべき、情報の基礎から社会(含：図書館)におけるICTの活用法について、基礎的知識を習得し情報社会で生きるための知識を事例を交えて教授します。				
授業の到達目標	1. 情報リテラシーを習得する2. ハードウェアやソフトウェアの構造と機能を理解する3. 情報機器の活用法について基礎的知識を習得する				
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—	
DPとの関連	◎	○			
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)					
授業計画			担当者		
第1回	情報とは、情報技術と社会		近藤		
第2回	コンピュータとネットワークの基礎、情報の表現		近藤		
第3回	データの扱いと計算方法		近藤		
第4回	コンピュータの種類、図書館等における情報技術活用の現状		近藤		
第5回	コンピュータの構成装置(演算、記憶、制御、入力、出力)		近藤		
第6回	オペレーティングシステム		近藤		
第7回	ケーススタディ、図書館業務システムの仕組み(ホームページによる情報の発信を含む)		近藤		
第8回	コンピュータシステムの処理形態、業務システム、データベースの仕組み		近藤		
第9回	プログラム、プログラム開発手順		近藤		
第10回	ネットワークの基礎		近藤		
第11回	検索エンジンの働きと仕組み		近藤		
第12回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ		近藤		
第13回	情報倫理(ディスカッション)		近藤		
第14回	電子資料の管理技術と保存、デジタルアーカイブ		近藤		
第15回	最新の情報技術と図書館、まとめ(ディスカッション)		近藤		
授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				○
担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は情報通信関連企業の勤務経験があり、実務体験に基づき授業を進める				

事前学習	事前に配布された資料に目を通す	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	資料を見直し理解を深め社会のICTの動向に興味を持って世の中の流れを見る	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業でのレポート課題に関して、全体的なフィードバックは翌週以降の授業で説明。質問事項に関しては、必要に応じて個別に対応します。		
質問・相談方法	メールもしくはオフィスアワーでの研究室での面談。		
オフィスアワー	火曜日～水曜日 16:30～17:30 研究室(西館415号室)		
テキスト	「特になし」(必要な資料は事前に配布します)		
参考文献等	岡田正ほか著『ネットワーク社会における情報の活用と技術 三訂版』実教出版, 2010 福島宏訓著『ITパスポートのよくわかる教科書(情報処理技術者試験)』技術評論社, 2017 久野靖ほか監修『情報トピック2018』日経BP社, 2018		
成績評価基準	授業内容について、基本的な概念、用語についてレポート、試験にて理解したことを示したものを合格とします。		
成績評価の方法	レポート(50%)、最終試験(50%)		
GPA基準			
備考			

科目名	情報活用		科目ナンバー	c01108	
担当者	根本 大志				
科目	—				
施行規則に定める科目区分または事項等	—				
授業形式	演習				
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修		
単位数	2	担当形態	単独		
免許・資格情報	必修：ビジ初実務士、上級ビジ初実務士、上級ビジ初実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディア秘書)、情報処理士				
授業の概要	入学時までには習得した各自のICTリテラシーを確認するとともに、貸与したChromebookや、インターネット、メールやコラボレーション(授業支援)ツールなどの基本アプリを操作するスキル、Office系アプリ(文書作成・表計算・プレゼンテーション)の基本的な操作スキルを身につける。なお、Office系アプリはデスクトップ版とクラウド版の両方を活用する。				
授業の到達目標	1. Chromebookや基本アプリの操作スキルを習得する。 2. 各種アプリの基本的な操作スキルを習得する。				
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—	
DPとの関連					
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)					
授業計画			担当者		
第1回	パソコンの基本操作		根本		
第2回	インターネットの基礎1短大での情報活用		根本		
第3回	インターネットの基礎2ネット検索のコツ		根本		
第4回	メールの基礎		根本		
第5回	授業支援ツールの基礎・スマートフォンとの連携		根本		
第6回	文書作成基礎1(基礎的な文書作成)		根本		
第7回	文書作成基礎2(表入り文書作成)		根本		
第8回	文書作成応用(図形・写真)		根本		
第9回	表計算基礎1(表作成)		根本		
第10回	表計算基礎2(関数利用)		根本		
第11回	表計算応用(グラフ作成)		根本		
第12回	プレゼンテーション基礎1(スライド作成・スライドショー)		根本		
第13回	プレゼンテーション基礎2(動画埋込み)		根本		
第14回	総合演習(各アプリケーションの連携・共有)		根本		
第15回	まとめ		根本		
授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
			○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	情報系国際会議委員長としての実務経験を活かしてICTの操作や活用法について教授する。				
事前学習	前回演習時に提示した課題を完成させて提出する。		学習合計時間(h)	30時間	

事後学習	授業の振り返りを記録し、提出する。時間内に完成できなかった項目・内容を復習する。理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	毎回の振り返り・課題についてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーの利用をする。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		
テキスト	(検討中)		
参考文献等	『30時間でマスター Office2019』 実教出版企画開発部 実教出版 2019年 1100円 ISBN978-4-407-34835-4		
成績評価基準	パソコンの基本的操作スキルを習得すること 各種アプリの基本的な操作スキルを習得すること		
成績評価の方法	毎回の課題(70%)と振り返り(30%)で総合的に判断する。		
GPA基準			
備考	課題及び振り返りは授業支援ツールやWebを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)		

科目名	デジタルビジネス概論		科目ナンバー	c01208
担当者	近藤 朗			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：情報処理士・ウェブデザイン実務士			

授業の概要	現代の企業では、さまざまなデジタル技術を用いることで、仕事の進め方や管理・運用方法が急速に変化している。この授業では、デジタル技術が与えるビジネスの変化、現状について概観し、必要なテクニカルターム、パスワードの解説から企業での仕事の流れについて説明する。また、実際の仕事で役立つプレゼンテーションスキルについても、課題を通じて指導する。全体を通して、デジタルビジネスの知識・スキルを高めるとともに、ITパスポート試験に必要なキーワードについても基本的な事項を解説する。			
授業の到達目標	1. 現代社会におけるデジタルビジネスの概要を理解する2. デジタル技術がビジネスに与える影響について学ぶ3. 新しい価値を説明しうるプレゼンテーションスキルを課題制作を通して学ぶ			

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○	○	

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション(授業の進め方とデジタルビジネスの概要説明)	近藤
第2回	企業と法務	近藤
第3回	経営戦略-経営戦略マネジメント・技術戦略マネジメント	近藤
第4回	経営戦略-ビジネスインダストリ	近藤
第5回	システム戦略-システム戦略	近藤
第6回	システム戦略-システム企画	近藤
第7回	事例紹介	近藤
第8回	開発技術-システム開発技術・ソフトウェア開発管理技術	近藤
第9回	プロジェクトマネジメント	近藤
第10回	サービスビジネス	近藤
第11回	サービスマネジメント-サービスマネジメント・システム監査	近藤
第12回	ビジネスプレゼンテーション	近藤
第13回	課題制作(1) 企画・アイデア展開	近藤
第14回	課題制作(2) プレゼン制作	近藤
第15回	まとめ、最近の動向	近藤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の業務経験と授業の関連	担当教員は企業でデジタルビジネス関連の業務経験があり、就職後も役立つ知識・スキルの習得に資する講義を行う。		
事前学習	事前に指示された資料に目を通す	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	各時間に修得した内容を整理し、記録しておく	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	レポートおよびプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワーでの対面対応およびメールによる対応		
オフィスアワー	火曜日?水曜日 16:30~17:30 研究室(西館 415号室)		
テキスト	「特になし」(必要な資料は事前に配布します)		
参考文献等	『いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集』 高橋京介(著) SBクリエイティブ社 2020年 1738円(税込み) ISBN-10:4815604967 『アフターデジタル』 藤井保文ほか(著) 日経BP社 2019年 2420円(税込み) ISBN-10:4296101625 『プレゼン資料のデザイン図鑑』 前田鎌利(著) ダイヤモンド社 2019年 2310円(税込み) ISBN-10:4478105871		
成績評価基準			
成績評価の方法	各単元到達度課題・レポート(50%) 最終課題(30%) 受講態度等(20%)による総合評価		
GPA基準			
備考			



科目名	情報処理論		科目ナンバー	c01204
担当者	渡邊 光浩			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：情報処理士・ウェブデザイン実務士 選択必修：司書資格			

授業の概要	高度情報化社会といわれる今日、情報がどのように処理され活用されているか、どのような問題点があるかを理解し、留意すべき点や今後について考えを述べることを目指す。
授業の到達目標	1.情報がどのように活用されているか把握する2.情報の活用についてどのような問題点があるか把握する3.自ら情報を活用する力を修得する

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎			

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	家庭における情報機器活用	渡邊
第2回	子どものインターネット利用	渡邊
第3回	学校における情報教育	渡邊
第4回	プログラミング教育	渡邊
第5回	様々な情報処理	渡邊
第6回	これからのコンビニ	渡邊
第7回	コンピュータ・インターネットのこれまで・これから	渡邊
第8回	ICTやインターネット、本当に大丈夫？	渡邊
第9回	ロボットやAI(人工知能)の今	渡邊
第10回	これからの生活の中のICT	渡邊
第11回	これからの社会、Society5.0	渡邊
第12回	情報を伝える様々なメディア	渡邊
第13回	メディアについて考えよう	渡邊
第14回	学んだことを振り返ろう～レポート作成	渡邊
第15回	学んだことを振り返ろう～レポートをもとにディスカッション	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かしてICTや情報の活用や問題点について教授する。		
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識を確認し、必要に応じて事前に調べておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・復習し、理解が十分でなかった場合、受講者相互で教え合った、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:30~18:00 研究室(西館417号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『生命と機械をつなぐ知 基礎情報学入門』 西垣通 高陵社書店 2012年 1600円(税抜き) ISBN978-4-7711-0995-7
成績評価基準	・情報がどのように活用されているか把握すること ・情報の活用についてどのような問題点があるか把握すること ・自ら情報を活用する力を修得すること
成績評価の方法	・毎回の振り返り(70%)と最終課題レポート(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・コンピュータを持参する・課題は授業支援ツールを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

科目名	デジタルデザイン		科目ナンバー	c01109
担当者	近藤 朗			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ウェブデザイン実務士			

授業の概要	現代社会では、さまざまなデジタル技術が浸透し、ビジネスにおいても急激な変化が進んでいる。この授業では、デジタル技術が社会にもたらしている状況を説明し、必要と思われるデジタル関連のスキルについて、デザインの基礎的な考え方からマーケティング、プレゼンテーションなど事例を示しつつ、実際に自分でも試行・制作することでデジタルデザインが身につくよう指導する。			
授業の到達目標	1. 現代社会におけるデジタルデザインの重要性を理解する 2. 情報化社会におけるデジタルデザインの基礎的な知識、考え方を学ぶ 3. デジタル技術の特性を活かしたコンテンツの企画・制作を行う			

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション(授業の進め方と制作環境の紹介)	近藤
第2回	デジタルデザインとは？	近藤
第3回	デジタルデザインの基礎(1)グラフィックデザイン	近藤
第4回	デジタルデザインの基礎(2)インタラクティブデザイン	近藤
第5回	デジタルデザインの間題課題 自己紹介プレゼン-その1：前半グループ	近藤
第6回	デジタルデザインの間題課題 自己紹介プレゼン-その2：後半グループ	近藤
第7回	中間発表	近藤
第8回	デジタルデザインのお仕事(1) クリエイティブ系	近藤
第9回	デジタルデザインのお仕事(2) セールス、事務系	近藤
第10回	最終課題の説明	近藤
第11回	課題制作(1) 企画	近藤
第12回	課題制作(2) 素材準備	近藤
第13回	課題制作(3) フィニッシュワーク	近藤
第14回	最終プレゼン	近藤
第15回	まとめ、最近の動向	近藤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の業務経験と授業の関連	担当教員は企業でデジタルデザイン関連の業務経験があり、就職後も役立つスキルの習得を目指す演習を行う。		
事前学習	事前に指示された資料に目を通す	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	各時間に修得した内容を整理し、記録しておく	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワーでの対面対応およびメールによる対応		
オフィスアワー	火曜日?水曜日 16:30~17:30 研究室(西館415号室)		
テキスト	「特になし」(必要な資料は事前に配布します)		
参考文献等	『デジタル色彩デザイン』 南雲治嘉(著) グラフィック社 2016年 1980円(税込み) ISBN-10: 4766129911 『インタラクティブデザインの教科書』 Dan Saffer (著), 吉岡 いずみ (翻訳), ソシオメディア株式会社 (翻訳) マイナビ出版 2008年 2310円(税込み) ISBN-10: 4839922381 『1からのデジタル・マーケティング』 西川 英彦(編集) 碩学舎 2019年 2640円(税込み) ISBN-10: 4502289914 『プレゼン資料のデザイン図鑑』 前田 謙利(著) ダイヤモンド社 2019年 2310円(税込み) ISBN-10: 4478105871		
成績評価基準			
成績評価の方法	各単元到達度課題(50%) 最終課題(30%) 受講態度等(20%)による総合評価		
GPA基準			
備考			

科目名	図書館概論		科目ナンバー	c01111
担当者	川戸 理恵子			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：司書資格			

授業の概要	司書資格関係科目を理解するための最も基礎的な科目である。図書館に関して必要な知識の導入として、図書館とその関連領域を概観する。図書館の目的、意義、社会的役割、現状などの解説を通じて、図書館とはどのようなものかを理解してもらう。なお、本講義では授業計画で扱われるテーマについて、ディスカッションやグループワーク等を行うことがある。			
授業の到達目標	1. 図書館の意義と役割を理解する 2. 図書館に関わる基礎的な知識を身につける			

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	図書館を取り巻く現代社会	川戸
第2回	図書館の構成要素と機能、社会的意義	川戸
第3回	図書館とメディアの歴史1(古代～戦前)	川戸
第4回	図書館とメディアの歴史2(戦後～現代)	川戸
第5回	公立図書館の成立と展開	川戸
第6回	図書館の種類とその特性1 (国立図書館・公共図書館)	川戸
第7回	図書館の種類とその特性2 (学校図書館・大学図書館・専門図書館)	川戸
第8回	図書館職員の役割	川戸
第9回	メディアの種類とその特徴	川戸
第10回	図書館の連携・ネットワーク	川戸
第11回	知的自由と図書館	川戸
第12回	図書館と著作権	川戸
第13回	図書館の技術と活用	川戸
第14回	図書館の課題と展望	川戸
第15回	総括	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読むこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をすること	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:30 研究室(西館418号室)※その他の時間は事前相談により対応
テキスト	『図書館のしごと: よりよい利用をサポートするために(第2版)』 国際交流基金関西国際センター編著 読書工房 2021年 2,500円(税抜き) (ISBN978-4-902666-40-6)
参考文献等	『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編 日本図書館協会 2016年 5,500円(税抜き) (ISBN978-4-8204-1609-8)
成績評価基準	図書館の意義と役割を理解し、図書館に関わる基礎的な知識を身につけること。
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(20%)、定期試験(70%)で総合的に判定する。なお、定期試験はレポート等で代用することがある。
GPA基準	
備考	

科目名	日本語表現法 I		科目ナンバー	c02101
担当者	倉重 加代			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [キャリア・アドバンス]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(デジタル秘書)、情報処理士			

授業の概要	初年次教育の一環として、学生生活を送る上で必要となるレポートを作成する力の育成を目指す。具体的にはレポートの構成の理解及び作成のルール、レポートの論拠構築のために必要な資料収集方法を身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. レポートの構成を理解する 2. レポート作成のルールを身につける 3. レポート作成にあたり説得力のある論拠を示すことができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス	倉重
第2回	レポート・発表物等(以下、レポート)の特徴を理解する	倉重
第3回	レポートの構成を学ぶ	倉重
第4回	レポート作成の段取りを学ぶ	倉重
第5回	アウトライン作成方法を学ぶ	倉重
第6回	資料収集方法を学ぶ1文献検索	倉重
第7回	資料収集方法を学ぶ2統計資料	倉重
第8回	わかりにくい文章の原因と対策を学ぶ	倉重
第9回	レポート作成・提出上のルールを学ぶ	倉重
第10回	報告するテーマについて調べる	倉重
第11回	報告のためのアウトラインを作成する	倉重
第12回	発表のための準備をおこなう	倉重
第13回	発表準備物のチェックを行う	倉重
第14回	調べたことを発表する	倉重
第15回	総括(発表・課題フィードバック含む)/次期授業の準備	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞、雑誌、インターネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めること。教科書を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	提出物作成のため授業内容の総復習をすること。その際、データを正確に読み、正しくアウトプットすること。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	第15回授業でフィードバックするとともに、課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する		
オフィスアワー	火曜日 16:30~18:30 研究室(西館312号室)		
テキスト	『最新版 論文の教室——レポートから卒論まで』 戸田山和久 NHK出版 2022年 ¥1,400 (ISBN 978-4-14-091272-0)		
参考文献等	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2018年 800円 (ISBN 978-4-06-513502-0)『社会調査の基礎』 北川由紀彦・山口恵子 放送大学教育振興会 2019年 2,400円 (ISBN 978-4-595-31952-5)		
成績評価基準	小レポート及び発表物において、テーマに対して適切な答えを示していること。期末レポートにおいて、レポート作成のルールに従い、根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成していること。		
成績評価の方法	小レポート(40%)、発表物(20%)、期末レポート(40%)(発表物は提出物で代替する場合がある)		
GPA基準			
備考			



科目名	日本語表現法Ⅱ		科目ナンバー	c02201
担当者	倉重 加代			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [キャリア・アドバンス]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	日本語表現法Ⅰの内容を踏まえたうえで、説得力のある意見を述べるために、必要な資料の読み方や社会調査の基本、分析方法を理解するとともに、プレゼンテーションを通して効果的な表現方法を身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 既存の情報について適切な読み方と活用ができるようになる 2. 社会調査の基礎を理解する 3. 説得力のある論拠を示して自身の意見を述べるができる

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス/プレゼンテーションのテーマを設定する	倉重
第2回	社会調査の基礎1基礎を学ぶ意味を理解する	倉重
第3回	社会調査の基礎2データの読み方を学ぶ	倉重
第4回	社会調査の基礎3踏査の対象と方法を理解する	倉重
第5回	社会調査の基礎4調査票作成のルールを学ぶ	倉重
第6回	社会調査の基礎5母集団について理解する	倉重
第7回	社会調査の基礎6量的調査について学ぶ	倉重
第8回	社会調査の基礎7質的調査について学ぶ	倉重
第9回	プレゼンテーション準備1アウトラインを作成する	倉重
第10回	プレゼンテーション準備2スライド作成のための資料収集を行う	倉重
第11回	プレゼンテーション準備3スライドを作成する	倉重
第12回	プレゼンテーション準備4作成したスライド内容の点検・修正を行う	倉重
第13回	プレゼンテーションを実施する	倉重
第14回	プレゼンテーションを振り返る	倉重
第15回	総括(プレゼンテーション・課題フィードバック含む)	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞、雑誌、インターネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めること。教科書および配付資料を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	提出物作成のため授業内容の総復習をすること。その際、自分の考えを論拠とともに言語化すること。	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	第15回授業でフィードバックするとともに、課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する		
オフィスアワー	火曜日 16:30~18:30 研究室(西館312号室)		
テキスト	『最新版 論文の教室——レポートから卒論まで』 戸田山和久 NHK出版 2022年 ¥1,400 (ISBN 978-4-14-091272-0)		
参考文献等	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2018年 800円 (ISBN 978-4-06-513502-0)『社会調査の基礎』 北川由紀彦・山口恵子 放送大学教育振興会 2019年 2,400円 (ISBN 978-4-595-31952-5)		
成績評価基準	グループ発表において、根拠を明確にした説得力のあるプレゼンテーションができること。期末レポートにおいて、アンケート結果や資料・グラフを生かしたより効果的なレポートを作成できること。		
成績評価の方法	発表物(30%)、小レポート(30%)、期末レポート(40%)(発表物は提出物で代替する場合があります)		
GPA基準			
備考			

科目名	キャリアデザイン I		科目ナンバー	c01114
担当者	近藤 朗、黒川 太郎、石田 もとな			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [キャリア・アドバンス]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	複数	
免許・資格情報	必修：ビジ初実務士、上級ビジ初実務士、上級ビジ初実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディア秘書)、情報処理士			

授業の概要	学生から職業人へ、自らのライフデザインをしっかりと認識しておくことが、現代社会を生きる上でとても重要である。「自分らしい生き方」を見つけるにはどうしたらよいか考え、個性に合った生き方をデザインし、充実した学生生活ができるよう、講義や体験授業を行う。就職に関する意志決定の方策や、自律的キャリア形成について学ぶことを目的とした科目である。
授業の到達目標	1. 自分の人生を設計する 2. 現代社会のありようを理解する 3. 就職活動のための知識・技能を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス ホーム親睦等	A
第2回	講義の受け方	A
第3回	キャリアサポートプログラム(東京アカデミー)	A
第4回	マイナビ登録 就活インターンシップへの活用の仕方	A
第5回	インターンシップ・学外活動・ボランティアについて説明 業界研究	A
第6回	インターンシップの必要性と心得	A
第7回	夏休みのインターンシップ先決め キャリアセンターへの報告	A
第8回	一般常識テスト	A
第9回	働く人へのインタビュー計画	A
第10回	働く人へのインタビュー発表	A
第11回	働く人へのインタビュー発表	A
第12回	診断ツールを使った適性テスト	A
第13回	自己分析	A
第14回	自己分析結果から考えられる業界・仕事	A
第15回	最終ガイダンス	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容について自分の考えをまとめておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	与えられた課題に積極的に取組み、将来の人生設計を図る	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	その後の授業で取り上げるなどして、理解を深める
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	責任者：近藤 火曜日 16:20～17:00 研究室(西館415号室)
テキスト	就職受験対策研究会編『基本ワーク 一般常識』 増進堂・受験研究社 580円 ISBN 978-4-424-65083-6 C7330
参考文献等	渡辺峻, 伊藤健市編著 『学生のためのキャリアデザイン入門：生き方・働き方の設計と 就活準備』 中央経済社, 2013年
成績評価基準	・現代社会についてについて理解をすること ・就職活動のための知識・技術を身につけていること
成績評価の方法	プレゼン・レポート提出(60%) 受講態度等(40%)による総合評価
GPA基準	
備考	A:近藤・黒川・石田 *尚、インターンシップの実技に関しては適宜授業外の時間において実施する可能性有

科目名	キャリアデザインⅡ	科目ナンバー	c01201
担当者	石田 もとな、川戸 理恵子、近藤 朗		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目 [キャリア・アドバンス]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	—		

授業の概要	学生から職業人へ、自らのライフデザインをしっかりと認識しておくことが、現代社会を生きる上でとても重要である。「自分らしい生き方」を見つけるにはどうしたらよいか考え、個性に合った生き方をデザインし、充実した学生生活ができるよう、講義や体験授業を行う。就職に関する意志決定の方策や、自律的キャリア形成について学ぶことを目的とした科目である。
授業の到達目標	1. 自分の人生を設計する 2. 現代社会のありようを理解する 3. 就職活動のための知識・技能を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス	A
第2回	効果的な自己PR	A
第3回	自己PRと志望動機・エントリーシート・履歴書	A
第4回	先輩に学ぶ(卒業生のお話)	A
第5回	個人面談	A
第6回	学外研修の諸注意	A
第7回	学外研修の諸注意	A
第8回	リクルートメイク	A
第9回	リクルートファッション・私服	A
第10回	研修報告会	A
第11回	研修報告会	A
第12回	模擬面接	A
第13回	模擬面接フィードバック	A
第14回	ディスカッション	A
第15回	まとめ(魅力ブック)	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容について自分の考えをまとめておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	与えられた課題に積極的に取組み、将来の人生設計を図る	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	その後の授業で取り上げるなどして、理解を深める
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	責任者：近藤 火曜日 16:20～17:00 研究室(西館415号室)
テキスト	特になし
参考文献等	渡辺峻, 伊藤健市編著 『学生のためのキャリアデザイン入門：生き方・働き方の設計と 就活準備』中央経済社, 2013年
成績評価基準	・現代社会について理解をすること・就職活動のための知識・技術を身につけていること
成績評価の方法	レポート等の提出(60%) 受講態度等(40%)による総合評価
GPA基準	
備考	A:石田 もとな、川戸 理恵子、近藤 朗

科目名	総合教養ゼミ		科目ナンバー	c01214
担当者	松下 大作			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [キャリア・アドバンス]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	公務員受験の最頻出科目である一般知能分野の判断推理、数的推理、空間把握の重要問題を学習することによって合理的な思考能力と処理能力を養う。公務員試験の現役合格を目標とし、民間企業の採用試験に使用されるSPI対策にも対応する。
授業の到達目標	(1)一般知能の解法に必要な基礎的知識を習得している。(2)与えられた条件をもとに処理する能力を習得している。(3)条件式を利用して文字や数を使いこなす能力を習得している。(4)規定時間内に実践問題に対応する能力を習得している。。

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連				

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画	担当者	
第1回	オリエンテーション・判断推理 I (文章条件、発言の真偽)	松下大作
第2回	数的推理 I (割合、比)	松下大作
第3回	空間把握 I (平面図形と軌跡)	松下大作
第4回	判断推理 II (リーグ戦、トーナメント戦)	松下大作
第5回	数的推理 II (速さ1)	松下大作
第6回	判断推理 III (順序、位置関係)	松下大作
第7回	数的推理 III (速さ2、仕事算)	松下大作
第8回	空間把握 II (空間図形1)	松下大作
第9回	判断推理 IV (集合、論理)	松下大作
第10回	数的推理 IV (整数解、方程式)	松下大作
第11回	判断推理 V (命題)	松下大作
第12回	数的推理 V (場合の数、確率)	松下大作
第13回	空間把握 III (空間図形2)	松下大作
第14回	総合演習1	松下大作
第15回	総合演習2	松下大作

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	大学・専門学校において公務員受験対策講座担当の実務経験を活かし、実践的な演習を行う。		
事前学習	興味のある自治体の詳細、試験内容を調べる。(できるだけ多くの自治体)各自所持しているあるいは購入した問題集に取り組む。(可能な場合)	学習合計時間(h)	30時間

事後学習	既受講内容について復習し、次週の確認テストに備える。(15時間)宅習テキストに取り組む。(15時間)	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに毎回前週の確認テストを実施する。(詳細については毎回指示します)		
質問・相談方法	授業の開始前、終了後に質疑応答の時間を設ける。		
オフィスアワー			
テキスト	数的推理・判断推理の解法宅習テキスト・宅習解説テキスト		
参考文献等	実務教育出版 地方初級 教養試験 過去問350 1,980円／市役所新教養試験Light&Logical [早わかり] 問題集 1,870円 高卒警察官 教養試験 過去問350 1,980円 など自分の希望職種にあったものを購入(メリカリやブックオフなどで過年度のもの購入も可)		
成績評価基準	数的推理・判断推理・空間把握の解法について基本的な知識が取得されているとともに実践的な対応力を習得している。教養試験に対して基礎力的な準備ができている。		
成績評価の方法	授業参加度50点 確認テスト20点 定期試験30		
GPA基準			
備考			



科目名	会計処理		科目ナンバー	c01216
担当者	江口 直美			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	資格養成科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	—	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：上級ビジ初実務士、上級ビジ初実務士(サビズ実務)			

授業の概要	会計処理方法の複式簿記を学習することで、企業の経済活動を記録・計算・整理し社会へ報告する会計帳簿の作成技術ならびに、企業の作成した会計帳簿を見て企業の財政状態や経営成績を判断する力を身につける。
授業の到達目標	1. 基本的な取引の仕訳や各種帳簿の記入ができるようになる 2. 決算手続きの処理ができるようになる 3. 簿記の全体像を理解し財務諸表を作成できるようになる 4. 社会人としての損益感覚を身につける

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	○			

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画	担当者
第1回 簿記の基礎	江口
第2回 仕訳と転記	江口
第3回 仕訳帳と元帳	江口
第4回 決算	江口
第5回 現金と預金	江口
第6回 繰り越し・商品・仕入・売上	江口
第7回 売掛金・買掛金	江口
第8回 その他の債権と債務	江口
第9回 受取手形と支払手形	江口
第10回 有形固定資産、貸倒れ	江口
第11回 資本	江口
第12回 収益と費用	江口
第13回 税金、伝票	江口
第14回 財務諸表(1)	江口
第15回 財務諸表(2)	江口

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	会計処理の教員経験と同時に会社経営者としての実務を踏まえた講義である		
事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読む	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をする	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業時間内に対応する。
オフィスアワー	
テキスト	『検定 簿記講義 3級』 中央経済社 750円 (ISBN : 978-4-502-81563-8) 『検定 簿記ワークブック 3級』 中央経済社 750円 (ISBN : 978-4-502-29401-3)
参考文献等	『合格テキスト日商簿記3級Ver10.0』 TAC出版 2,000円 (ISBNコード : 9784813277934)
成績評価基準	基本的な取引の仕訳や各種帳簿の記入、決算手続きの処理、財務諸表の作成ができること
成績評価の方法	受講態度(40%) 定期試験(60%)
GPA基準	
備考	受講生は一連の流れで行われる講義のため欠席をしないようにすること。記帳処理を学習するため通常の筆記用具のほか、赤ペン、定規、電卓を持参すること。

科目名	ウェブデザイン		科目ナンバー	c01207
担当者	近藤 朗			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：ウェブデザイン実務士			

授業の概要	ホームページによる情報提供に必要なウェブの基礎的知識やウェブデザイン制作技術に関する基礎的知識を教授します。授業では、インターネット利用者の使いやすさを意識したウェブサイトの設計について、技術だけでなく構成およびデザインについて、さらにウェブ上でレイアウトや色彩などがコミュニケーションツールとして果たす役割等について実習を通して指導します。授業は知識の学習とそれにもとづく課題で構成しています。
授業の到達目標	1. ウェブの基礎知識を習得する 2. ウェブデザインの基礎知識を習得する 3. ウェブデザインの制作技術を習得する

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション、ウェブデザインの仕事	近藤
第2回	インターネットの基礎知識、ウェブサイトの種類について	近藤
第3回	ウェブサイトの基礎、制作のワークフロー	近藤
第4回	ウェブデザインの基礎知識について	近藤
第5回	ウェブサイトを作成するための技術的知識について	近藤
第6回	人間中心設計、ユーザビリティ、アクセシビリティ	近藤
第7回	ウェブページの作成手順	近藤
第8回	演習(1)ウェブサイトの企画	近藤
第9回	演習(2)ターゲットユーザーの設定	近藤
第10回	演習(3)ユーザーシナリオの作成	近藤
第11回	中間発表	近藤
第12回	演習(4)ウェブサイトの情報構造の設計	近藤
第13回	演習(5)ナビゲーションとページレイアウトの設計	近藤
第14回	演習(6)ウェブページのグラフィックデザイン	近藤
第15回	最終発表	近藤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は企業にてウェブサイトの企画・デザインを経験しており、実務体験から就職後にも有益な演習をおこなう		
事前学習	事前に配布された資料に目を通す	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	資料を見直し、いろいろなウェブデザインに興味を持つ	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業時間内でのアドバイス、提出課題等にコメント記述
質問・相談方法	メールもしくはオフィスアワーでの研究室での面談
オフィスアワー	火曜日～水曜日 16:30～17:30 研究室(西館415号室)
テキスト	「特になし」(必要な資料は事前に配布します)
参考文献等	『人間中心設計入門 HCDライブラリー 第0巻』 山崎和彦 他(編著) 近代科学社 2016年 2750円(税込み) ISBN-10: 476490506X 『Webデザインテクニックブック』 MdN編集部(編集) エムディエヌコーポレーション 2012年 3080円(税込み) ISBN-10: 4844363026
成績評価基準	授業内容を理解し、最終課題を完成させたものを合格とします。
成績評価の方法	各単元到達度課題(50%)、最終課題提出(30%)、受講態度等(20%)による総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	情報デザイン演習		科目ナンバー	c01206
担当者	近藤 朗			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修:ウェブデザイン実務士			

授業の概要	情報デザインは、情報を対象者に適切に伝え、そこから豊かな生活を生み出す方法論である。情報社会において、情報コミュニケーションの良し悪しによって格差が生じ、人々の生活にも大きな影響を与えうる。授業では、情報デザインの基本的な考えから人間が情報を理解する際の原則、それらを踏まえた上でどのように情報をデザインするかをワークショップ形式で指導する。
授業の到達目標	1. 情報デザインの概要を理解する2. 事例を通して人間とモノや環境との関係性にかたちを与える方法論を学ぶ3. 生活の中にあふれる情報をわかりやすく提示し、良い体験をデザインすることの大切さを理解する

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連深いDP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション、情報デザインとはなにか	近藤
第2回	情報デザインの歴史と領域、プロセス	近藤
第3回	情報デザインの活用	近藤
第4回	グラフィックレコーディング ワークショップ1 (課題説明と練習)	近藤
第5回	グラフィックレコーディング ワークショップ2 (課題演習)	近藤
第6回	情報デザインプロセスの概要	近藤
第7回	インフォグラフィックワークショップ	近藤
第8回	カードソーティングワークショップ1 (課題説明と練習)	近藤
第9回	カードソーティングワークショップ2 (課題演習)	近藤
第10回	はじめてのUXデザイン、はじめてのデザイン	近藤
第11回	ユーザ調査 (ユーザーインタビューワークショップ)	近藤
第12回	課題のオリエンテーション	近藤
第13回	課題制作1-現状調査と調査結果の視覚化	近藤
第14回	課題制作2-ディスカッションによるコンセプトの策定とメッセージ表現	近藤
第15回	成果物の発表と評価	近藤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は企業にて情報システムの企画業務を経験しており、実務体験から学生に適した演習をおこなう		
事前学習	事前に指示された資料に目を通す	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	資料を見直し理解を深める	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業時間内でのアドバイス、提出物にコメント記述
質問・相談方法	メールもしくはオフィスアワーでの研究室での面談
オフィスアワー	火曜日～水曜日 16:30～17:30 研究室(西館415号室)
テキスト	「特になし」(必要な資料は事前に配布します)
参考文献等	情報デザインフォーラム編集 『情報デザインの教室』 丸善, 2010 情報デザインフォーラム編集 『情報デザインのワークショップ』 丸善, 2014 渡辺保史 著 『情報デザイン入門』 平凡社, 2001
成績評価基準	授業内容を理解し、最終課題を完成させたものを合格とします。
成績評価の方法	各単元到達度課題(50%)、最終課題提出(30%)、受講態度等(20%)による総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	図書館サービス概論		科目ナンバー	c01113
担当者	川戸 理恵子			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	資格養成科目(司書)	
開講期	前期	卒業の選択・必修	—	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：司書資格			

授業の概要	利用者と直接関わる業務である図書館サービスは、意義・特質・方法について基本事項を体系的に幅広く学習する必要がある。そこで、図書館サービスに関する知識を身につけ、具体的な運営方法を理解してもらう。なお、本講義では授業計画で扱われるテーマについて、ディスカッションやグループワーク等を行うことがある。
授業の到達目標	1. 図書館サービスの種類と特徴を知る2. 図書館サービスに必要な知識を身につける3. 図書館で実際行われている具体的なサービスを理解する

ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	図書館サービスの意義	川戸
第2回	図書館サービスの理念	川戸
第3回	図書館サービスの歴史的展開	川戸
第4回	図書館サービスの種類と方法1(資料提供サービス)	川戸
第5回	図書館サービスの種類と方法2(情報提供サービス)	川戸
第6回	館種別図書館サービス1(国立図書館・公共図書館)	川戸
第7回	館種別図書館サービス2(学校図書館・大学図書館・専門図書館)	川戸
第8回	利用対象者別サービス1(児童・YA・高齢者等)	川戸
第9回	利用対象者別サービス2(障がい者・多文化等)	川戸
第10回	図書館の協力、ネットワーク	川戸
第11回	図書館サービスの評価	川戸
第12回	図書館サービスと著作権	川戸
第13回	図書館サービスと図書館の自由	川戸
第14回	図書館サービスと住民・地域活動	川戸
第15回	総括	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読むこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業・実習の内容を踏まえて知識の整理をする	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:30 研究室(西館418号室)※その他の時間は事前相談により対応
テキスト	『事例で学ぶ図書館サービス概論』 吉井潤著 青弓社 2022年 2,000円(税抜き) (ISBN978-4-7872-0079-2)
参考文献等	『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編 日本図書館協会 2016年 5,500円(税抜き) (ISBN978-4-8204-1609-8) 『図書館のしごと: よりよい利用をサポートするために(第2版)』 国際交流基金関西国際センター編著 読書工房 2021年 2,500円(税抜き) (ISBN978-4-902666-40-6)
成績評価基準	図書館サービスに必要な知識と実際行われている具体的なサービスを理解すること。
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(20%)、最終レポート(70%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	「図書館概論」を同時に履修することが望ましい。



科目名	情報サービス論	科目ナンバー	c01217
担当者	川戸 理恵子		
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	資格養成科目(司書)
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書資格		

授業の概要	図書館における情報提供サービスは、資料提供サービスと同様に図書館サービスの核となるものである。知的ニーズを持つ利用者に対し、図書館員が的確かつ効率よく情報を提供することは重要である。そこで、情報サービスにおける基礎的な知識として、情報サービスが重要視される社会的背景と情報ニーズを把握し、各種情報サービスの方法と手段について解説する。なお、本講義では授業計画で扱われるテーマについて、ディスカッションやグループワーク等を行うことがある。
授業の到達目標	1. 情報サービスが必要とされる社会的背景を知る2. 情報サービスの種類と理論を知る3. 図書館で実際に行われている具体的な情報サービスを理解する

ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	情報と社会	川戸
第2回	情報ニーズとその種類	川戸
第3回	図書館の機能と情報サービス	川戸
第4回	情報サービスとその種類	川戸
第5回	情報源とレファレンスコレクション1(事実解說的レファレンスツール等)	川戸
第6回	情報源とレファレンスコレクション2(案内指示的レファレンスツール等)	川戸
第7回	図書館とレファレンスサービス	川戸
第8回	レファレンスサービスの理論(情報ニーズと探求行動)	川戸
第9回	レファレンスサービスの実際(原則とレファレンスプロセス)	川戸
第10回	発信型情報サービスの意義と方法	川戸
第11回	図書館利用教育	川戸
第12回	学校図書館における情報サービスの意義	川戸
第13回	パスファインダーの作成1(解説および予備調査)(※グループワーク、発表含む)	川戸
第14回	パスファインダーの作成2(予備調査および作成)(※グループワーク、発表含む)	川戸
第15回	図書館における情報サービスの課題と展望	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読むこと	学習合計時間(h)	30時間

	と		
事後学習	授業・実習の内容を踏まえて知識の整理をする	学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスパワーで対応する。		
オフィスパワー	月曜日 11:00～12:30 研究室(西館418号室)※その他の時間は事前相談により対応		
テキスト	『情報サービス及び演習(第2版)』 中西裕ほか著 学文社 2019年 1,800円(税抜き) (ISBN978-4-7620-2897-7)		
参考文献等	『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編 日本図書館協会 2016年 5,500円(税抜き) (ISBN978-4-8204-1609-8) 『図書館のしごと: よりよい利用をサポートするために(第2版)』 国際交流基金関西国際センター編著 読書工房 2021年 2,500円(税抜き) (ISBN978-4-902666-40-6)		
成績評価基準	図書館で行われている情報サービスの理論と実際を理解すること。		
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(20%)、最終レポート(70%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考	「図書館概論」の単位を修得しておくことが望ましい。		

科目名	情報資源組織論		科目ナンバー	c01210
担当者	川戸 理恵子			
科目	—			
施行規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	資格養成科目(司書)	
開講期	後期	卒業の選択・必修	—	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：司書資格			

授業の概要	資料組織業務は、利用者に対して効率よく確実な情報資源へのアクセスを保障するものであり、図書館における業務の中で、間接的サービスとして重要である。そこで、図書館における情報資源の組織化に必要な技術である目録・分類等について取りあげるなかで、目録システムや主題別の組織化の仕組みについて理解してもらう。なお、本講義では授業計画で扱われるテーマについて、ディスカッションや発表等を行うことがある。
授業の到達目標	1. 図書館において情報資源を組織化する意義を理解する2. 情報資源の組織化に関する知識を身につける

ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識や技能現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と、情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。	2 コミュニケーション能力他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。	3 グローバル社会への理解異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連深いDP番号は◎(1か所のみ)

授業計画		担当者
第1回	図書館の機能と情報資源の組織化	川戸
第2回	書誌コントロールとは	川戸
第3回	書誌情報の生産・流通・管理	川戸
第4回	書誌記述法の概要	川戸
第5回	書誌記述法と目録規則	川戸
第6回	日本目録規則の概要	川戸
第7回	主題組織法の概要	川戸
第8回	分類法と分類表	川戸
第9回	件名法と件名標目表	川戸
第10回	目録作業とMARC	川戸
第11回	OPACとは	川戸
第12回	書誌ユーティリティとは	川戸
第13回	ネットワーク情報資源の組織化	川戸
第14回	新たな情報資源組織化	川戸
第15回	総括	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読むこと	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をすること	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 11:00～12:30 研究室(西館418号室)※その他の時間は事前相談により対応
テキスト	『情報資源組織論及び演習(第3版)』 那須雅熙・蟹瀬智弘著 学文社 2020年 2,200円(税抜き) (ISBN978-4-7620-3012-3)
参考文献等	『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編 日本図書館協会 2016年 5,500円(税抜き) (ISBN978-4-8204-1609-8) 『図書館のしごと: よりよい利用をサポートするために(第2版)』 国際交流基金関西国際センター編著 読書工房 2021年 2,500円(税抜き) (ISBN978-4-902666-40-6)
成績評価基準	情報資源を組織化する意義を理解し、その関連知識を身につけること。
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(20%)、定期試験(70%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	「図書館概論」の単位を修得しておくことが望ましい。